

大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）
による就学支援の対象機関となる大学等（確認大学等）について

令和 2 年 6 月 30 日
学校法人 龍馬学園
理事長 佐竹新市

（私立専門学校）

確認大学等の名称	国際デザイン・ビューティカレッジ
確認大学等の所在地	高知県高知市旭町 2-22-58
設置者の名称	学校法人 龍馬学園
設置者の主たる事務所の所在地	高知県高知市北本町 1-12-6
備考	

高知県知事 浜田 省司 殿

学校法人 龍馬学園

理事長 佐竹 新市



大学等における修学の支援に関する法律第7条第1項の確認に係る申請書

○申請者に関する情報

大学等の名称	国際デザイン・ビューティカレッジ
大学等の種類 (いずれかに○を付すこと)	(大学・短期大学・高等専門学校 <u>専門学校</u>)
大学等の所在地	〒780-0935 高知県高知市旭町 2-22-58
学長又は校長の氏名	永橋 正至
設置者の名称	学校法人 龍馬学園
設置者の主たる事務所の所在地	〒780-0056 高知県高知市北本町 1-12-6
設置者の代表者の氏名	佐竹 新市
申請書を公表する予定のホームページアドレス	https://www.ryoma.ac.jp/disclosure_file/musyoka/cid/c-application.pdf

※ 以下の事項を必ず確認の上、すべての□にレ点 (☑) を付けて下さい。

確認申請

大学等における修学の支援に関する法律施行規則第5条第1項に基づき確認申請書を提出します。

更新確認申請

大学等における修学の支援に関する法律施行規則第5条第3項に基づき更新確認申請書を提出します。

※ 以下の事項を必ず確認の上、すべての□にレ点 (☑) を付けて下さい。

この申請書(添付書類を含む。)の記載内容は、事実と相違ありません。

確認を受けた大学等は、大学等における修学の支援に関する法律(以下「大学等修学支援法」という。)に基づき、基準を満たす学生等を減免対象者として認定し、その授業料及び入学金を減免する義務があることを承知しています。

大学等が確認を取り消されたり、確認を辞退した場合も、減免対象者が卒業するまでの間、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。

この申請書に虚偽の記載をするなど、不正な行為をした場合には、確認を取り消されたり、交付された減免費用の返還を命じられる場合があると同時に、減免対象

者が卒業するまでの間、自らが費用を負担して、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。

- 申請する大学等及びその設置者は、大学等修学支援法第7条第2項第3号及び第4号に該当します。

○各様式の担当者名と連絡先一覧

様式番号	所属部署・担当者名	電話番号	電子メールアドレス
第1号	総務部・西網将司	088-825-0900	nishiami@ryoma.ac.jp
第2号の1	教務部・岩神義宏	088-875-0099	iwagami@ryoma.ac.jp
第2号の2	企画室・福重忠司	088-825-3303	fukujyu@ryoma.ac.jp
第2号の3	教務部・岩神義宏	088-875-0099	iwagami@ryoma.ac.jp
第2号の4	総務部・西網将司	088-825-0900	nishiami@ryoma.ac.jp

○添付書類

※ 以下の事項を必ず確認し、必要な書類の□にレ点 (☑) を付けた上で、これらの書類を添付してください。(設置者の法人類型ごとに添付する資料が異なることに注意してください。)

「(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置」関係

- 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表《省令で定める単位数等の基準数相当分》
- 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）《省令で定める単位数等の基準数相当分》

「(2)-①学外者である理事の複数配置」関係

- 《一部の設置者のみ》大学等の設置者の理事（役員）名簿

「(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置」関係

- 《一部の設置者のみ》大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織に関する規程とその構成員の名簿

「(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表」関係

- 客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料
- 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）《省令で定める単位数等の基準数相当分》【再掲】

その他

- 《私立学校のみ》経営要件を満たすことを示す資料
- 確認申請を行う年度において設置している学部等の一覧

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	国際デザイン・ビューティカレッジ
設置者名	学校法人 龍馬学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
文化・教養関係専門課程	グラフィックデザイン科	夜・通信	2090 単位時間	160 単位時間	
	マンガ科	夜・通信	1894 単位時間	160 単位時間	
	総合研究科	夜・通信	1000 単位時間	80 単位時間	
工業関係専門課程	自動車整備科	夜・通信	2195 単位時間	160 単位時間	
	建築・インテリアデザイン科	夜・通信	2077 単位時間	160 単位時間	
	二級建築士専攻科	夜・通信	935 単位時間	80 単位時間	
衛生関係専門課程	美容総合学科	夜・通信	2108 単位時間	160 単位時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.ryoma.ac.jp/disclosure_file/musyoka/cid/list/c-career.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	国際デザイン・ビューティカレッジ
設置者名	学校法人 龍馬学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.ryoma.ac.jp/disclosure_file/musyoka/hon/directors.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	学校法人穴吹学園 専務理事	2020/5/28 ~ 2022/5/ (次々回の理事会開催日)	学校経営に関する 意見交換及びノウ ハウの共有
非常勤	宮地電機株式会社 代表取締役社長	2020/5/28 ~ 2022/5/ (次々回の理事会開催日)	民間企業が必要と する人材育成に関 するアドバイス
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	国際デザイン・ビューティカレッジ
設置者名	学校法人 龍馬学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。

(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)

1. 教育課程の編成を行う上での企業等との連携

専門分野における知識・技術動向や産業界(企業)の状況について業界の関係者から意見交換を行う場として、教育課程編成委員会を組織している。この委員会では意見交換の結果を踏まえて授業内容や教育指導方法、評価方法等について検討を行い実践的な職業教育の在り方を策定している。委員会は年2回以上行う。

2. カリキュラムの構築についての取り組み

教育課程編成委員会の審議内容をもとに、既存のカリキュラムに反映させるため学科内でカリキュラム編成会議を行い、産業界の意見や動向を見据えた教育内容の改善を行っている。また、人材育成像、教育目標と照らし合わせてカリキュラム体系の整合性がとれているかどうか、学生の立場から学習内容が段階的で無理なく系統だった内容となっているかどうかなどの検討を行っている。

3. 授業の実践に向けての教員研修計画

教育の質を高めるためには、授業を実践していく中で教員にはどのような専門知識が必要なのか、また教員としてのスキルや資質の向上に向けて必要な研修は何か等、教育課程編成委員会の意見交換の結果も踏まえ各学科で検討を行っている。最終的には学校全体で共有し教員の研修計画を立てている。

4. シラバスの作成と評価基準・方法の明確化

シラバスの作成においては履修科目の概要を理解させ、学生が学修するに当たり身に付けるべき知識や能力を明確にしている。また学生の学びの指針を示し学習意欲を高められるように工夫している。

またシラバスに適切な評価基準を設定するに当たり教育目標(学習目標)と照らし合わせて、知識やスキルがどの程度達成されたか、数量的あるいは具体的な行動指針を示し評価が行えるようシラバスに反映させており、教員と学生が到達目標を共有できるように配慮している。このシラバスは年度末に次年度分を作成する。年度始めに学生に配布し、外部の方にも教育内容を知っていただくためにホームページ上に公表している。

5. 教育実施後の点検と評価

教育実施後の学修効果を検証するために、学生アンケートを実施し学生からの率直な意見を収集・分析している。また教員相互の授業参観(主にキャリアの浅い教員とベテランの教員を対象)を行い授業の点検と教員のスキルの向上を図っている。授業の評価が思わしくない科目においては原因の究明を徹底的に行い、問題を教員のスキル、授業構成、学生の関心度等、幾つかのパターンに分類し教員研修など対策を講じ授業の改善に取り組んでいる。

6. 教育実践の評価の公表と関係団体との情報共有

本校では専修学校の学校評価ガイドラインに則った学修成果の公表をホームページ上で公開しており、関係企業や団体とも情報共有し様々な意見を受け入れている。この結果の公表に基づき次年度の教育課程編成委員会で検討を重ねながら更なるカリキュラムの改善に役立っている。

授業計画書の公表方法

[https:// www.ryoma.ac.jp/disclosure/cid.html](https://www.ryoma.ac.jp/disclosure/cid.html)

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

本校は、授業科目レベル及び教育課程レベルの学修成果の評価について、その目的、達成すべき水準、評価の実施方法について次のように取り組んでいる。

目的

1. 学科の卒業認定・学位授与の方針に定める「学生が身に付けるべき資質・能力」、キャリアに関して身につけるべき知識や技術・技能に関する学修成果の把握・評価を行う。
2. 学修成果を把握・評価することで、学生が自ら教育目標と照らし合わせて成長を実感できるようにする。
3. 学修成果の把握・評価に関する情報を教職員で共有し検証することにより、授業科目担当者及び学科として教育の改善・向上に取り組み教育の質を高める。

達成すべき水準

1. 授業科目の成績評価については、「国際デザイン・ビューティカレッジGPA制度に関する規定」の第2条の規定に定められた評価基準によるものとし、授業科目について達成すべき水準を評定の「C」(GPの「1」)以上としている。

評価		得点	G P
A	基準を超えて優秀である	85点以上	3
B	基準に十分達している	70～84点	2
C	単位を認める最低限の基準に達している	60～69点	1
D	基準を下回っている（不合格）	59点以下	0

学修成績評価

1. 授業科目の学修成績評価は、当該授業科目の修了する学期末に行い、学修成績や各種検定試験結果を記載した学業成績表を保護者に郵送する。
2. 学修成績評価は、講義主体の授業科目は定期試験を重点に行うが、定期試験に替えて他の方法によることができる。演習・実技・作品制作を伴う授業科目はレポートや作品成果等当該授業科目に適切な方法で評価する。
3. 各授業科目に係る出席時数が実授業時数の10分の9に達していない学生は、当該授業科目の学修成績評価を受けることはできない。ただし出席時数が規程に満たない者でも、年間必要な時数が確保できると判断される場合は補習授業によって評価に必要な時数を確保する場合がある。
4. 学修成績評価は、各授業科目100点を満点とし60点（合格基準点）以上の評価を得た当該授業科目を合格（授業科目の修得）とする。ただし評価が不合格である科目を持った者や病欠等により受験できなかった者に対し追試験を行う場合がある。
5. 評定が「D」の科目（未取得科目）は再履修させる。

評価の実施方法

1. 授業科目における学生が修得した知識及び能力（技術・技能）の状況は、次の方法により把握している。

学生個人の把握・評価	授業科目としての把握・評価
授業科目ごとの成績（GP）	授業科目のシラバスに示された評価方法・基準による到達目標の達成度の成績評価

2. 教育課程における学生が修得した知識及び能力（技術・技能）の状況については、次の方法により実施している。

授業科目ごとの学修意欲	授業評価アンケートの学修意欲に関する結果
成績（GPA）	学年ごとの GPA の平均値と成績評価の分布、卒業に必要な所定の単位を修得した者のうち、達成すべき水準 GPA（1.5）を達成した者の割合
卒業研究・作品の評価	卒業研究（発表）・作品の提出者について、達成すべき水準に到達した者の割合
実習（外部）、インターンシップ	実習先から提出された評価シートに基づき、達成すべき水準に値する評価を得た学生の割合
キャリアに関して身につけるべき知識や能力（就業力）に関する段階評価	定期的実施される就学のための研修（就職研修）をとおして評価シートの履歴を振り返り「キャリア形成」を判定。段階的評価（A・B・C・D）の結果を把握し全体の平均値を把握

評価結果の検証と改善への取り組み

1. 授業科目については、カリキュラム委員会及び担当教員が授業科目の成績評価の分布及び授業評価の結果を確認し、授業の改善に取り組んでいる。
2. 教育課程については、教育課程編成委員会からの意見を踏まえ、カリキュラム編成委員会において検証結果を共有し改善に取り込んでいる。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

国際デザイン・ビューティカレッジGPA制度に関する規定

(趣旨)

第1条 この規程は、国際デザイン・ビューティカレッジにおけるグレード・ポイント・アベレージ(履修科目の成績の平均値。以下「GPA」という。)制度による評価について必要な事項を定め、透明性のある成績評価を通じて、学生の学習意欲を喚起するとともに教員のきめ細やかな履修指導を推進し、教育の質の向上を図ることを目的とする。

(評価等)

第2条 学生が履修した授業科目の成績の評価及びグレード・ポイント(評価により与えられる数値。以下「GP」という。)は、下記の表のとおりとする。

【表】

評価		得点	GP
A	基準を超えて優秀である	85点以上	3
B	基準に十分達している	70～84点	2
C	単位を認める最低限の基準に達している	60～69点	1
D	基準を下回っている(不合格)	59点以下	0

2 前項の規定にかかわらず、再試験により取得した評価は成績(得点)の結果にかかわらず「C」評価としGPの値は「1」とする。学生が他大学等で履修した授業科目等(以下「他大学等履修科目」という。)について、本学における履修とみなし単位を与える場合は、GPAの算出科目の対象とはしない。ただし、校長が必要と認める場合は、他大学等履修科目について、前項の規定に基づく成績の評価を行うことができるものとする。

(GPAの算出)

第3条 GPAは、次の式により計算するものとし、その数に小数点以下第二位未満の端数があるときは、小数点以下第三位の値を四捨五入するものとする。

$$(式1) \text{ GPA} = \frac{(\text{GP} \times \text{時間数}) \text{ の総和}}{\text{履修科目の総時間数}}$$

(対象授業科目等)

第4条 本学の各専門課程で開講する全ての授業科目をGPAの対象授業科目とする。

2 前項の規定にかかわらず、次の各号に掲げる授業科目に該当する場合は、GPAの対象外とする

- (1) 合否等により判定する授業科目
- (2) 学校長がGPA算出除外科目として定める授業科目

客観的な指標の
算出方法の公表方法

[https://
www.ryoma.ac.jp/disclosure_file/musyoka/cid/GPA/c-gpa.pdf](https://www.ryoma.ac.jp/disclosure_file/musyoka/cid/GPA/c-gpa.pdf)

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

卒業の認定に関する方針

1. 卒業認定の方針

① グラフィックデザイン科

グラフィックデザイナーとして必要とされるコミュニケーション能力、理解力・分析力・構成力を身につけ、ポスター・カタログ等の印刷媒体から、Web デザイン、CG 等の映像媒体まで幅広く多様化した現在の広告業界に対応できる人材育成を目指す。

② マンガ科

1コマ漫画・4コマ漫画をはじめ、劇画・コミックなど様々な表現方法を身につける。漫画家・コミックイラストレーターとして必要な考察力・想像力を高め、商業雑誌で要求される表現テクニックや、漫画家のアシスタントに要求される技術を習得した人材育成を目指す。

③ 建築・インテリアデザイン科

建築設計や施工管理者として活躍できる技能や専門知識を身につけ、建築に関する法規や一般構造、家具デザインの基礎やデザイナーの資質などについても総合的に理解している。単に建築意匠や空間の装飾にとどまらず、ライフスタイルそのものを提案できる設計力、施工現場にて作り上げていく管理能力などを兼ね備えた人材の育成を目指す。

④ 二級建築士専攻科

二級建築士及び木造建築士の受験資格を有する者を対象に、国家資格の二級建築士に必要な知識と技術を身につけた人材の育成を目指す。

⑤ 自動車整備科

自動車整備士に必要な基礎知識と基礎技術の習得を第一の目標とし、通常授業以外に加え、企業との連携授業や各種検定資格取得講義を実施する。また、ビジネスマナーの習得、コミュニケーション能力の向上を図り、自動車業界で活躍できる人材育成を目指す。

⑥ 美容総合学科

高度な知識と即戦力となる技術を習得し、美容業界に貢献できる高い意識をもった人材を養成し、国家資格である美容師免許の取得を目指す。社会人としての人間力や常識を備えた次世代を担う技術者を養成すると共に、コース選択制導入を最大限活かし多角的に美容業界で活躍できる人材育成を目指す。

⑦ 総合研究科

コース選択制により更なる専門性の追求とともに、上級資格や技術を修得できる人材育成を目指す。

卒業の認定に係わる手順と要件

1. 卒業の認定に係わる手順

当校における卒業及び進級の認定は進級・卒業審査で行っている。この審査では担任が予め作成した個人ごとの評価資料（定期試験結果、出席、資格の取得状況、卒業作品の評価、学費の納入状況等）を基に進級及び卒業の要件（下記参照）に照らし合わせ、それぞれの評価項目で基準に達していることを条件に認定を行っている。

また、進級及び卒業要件は「学生の手引き」に記載しており年度初めに学生に公表している。

2. 卒業の認定に係わる要件

卒業及び進級の認定については当校の「学則施行細則」に次のように定められている。

（以下抜粋）

（進級及び卒業の要件等）

第 11 条 学則第 25 条第 4 項の規程により、進級及び卒業の要件等について、次のとおり定める。

- (1) 進級及び卒業は、欠席日数（校長が定める欠席の日数（公欠）を除く）が出席すべき日数の 10 分の 1 を超えるもの、又は 10 分の 1 以内であっても各科で定める法定等の時間に満たない者は、進級又は卒業できない。
- (2) 進級・卒業の可否は、該当年度の全ての科目に対し、出席、定期試験、課題提出状況、作品完成度、素行、学習態度等を進級・卒業審査において総合評価する。
- (3) 進級・卒業の可否は、特別な事情を除き当該学年の学費等を完納していること。

（留年）

第 12 条 前条 (1) 又は (2) の要件（進級又は卒業）を満たさない者は留年させる。

2 留年となった者は、当該学年の全授業科目の修得（単位の修得）を認めず、次年度再履修させる。また、学則に定める授業料等の他、諸経費を徴収する。

（進級・卒業の認定）

第 13 条 校長は、学年末の成績会議（進級・卒業審査）を経て、授業科目の修得（単位の修得）、進級及び卒業等を認定する。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

[https://
www.ryoma.ac.jp/disclosure_file/musyoka/cid/credit/c-graduation.pdf](https://www.ryoma.ac.jp/disclosure_file/musyoka/cid/credit/c-graduation.pdf)

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	国際デザイン・ビューティカレッジ
設置者名	学校法人 龍馬学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.ryoma.ac.jp/disclosure_file/musyoka/hon/finance/finance1.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.ryoma.ac.jp/disclosure_file/musyoka/hon/finance/finance2.pdf
財産目録	https://www.ryoma.ac.jp/disclosure_file/musyoka/hon/finance/finance3.pdf
事業報告書	https://www.ryoma.ac.jp/disclosure_file/musyoka/hon/finance/finance4.pdf
監事による監査報告（書）	https://www.ryoma.ac.jp/disclosure_file/musyoka/hon/finance/finance5.pdf

2. 教育活動に係る情報

①-1 学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養関係 専門課程	グラフィックデザイン科	○	-		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2291 時間	243 時間	739 時間	1309 時 間	時間	時間
			2228 時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		47人	0人	3人	10人	13人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

グラフィックデザイン科

グラフィックデザイナーとして必要とされるコミュニケーション能力、理解力・分析力・構成力を身につけさせることを基本としている。またポスター・カタログ等の印刷媒体から、Web デザイン、CG 等の映像媒体まで幅広く多様化した現在の広告業界に対応できるような人材育成を目指しており、それぞれの授業すべてにおいて、年間のシラバス及びコマシラバスを作成し実施している。一コマは50分。

成績評価の基準・方法

（概要）

成績評価の基準はグレード・ポイント・アベレージ（履修科目の成績の平均値。以下「GPA」という。）制度による評価について必要な事項を定め、透明性のある成績評価を行っている。

GPAは、次の式により計算するものとし、その数に小数点以下第二位未満の端数があるときは、小数点以下第三位の値を四捨五入するものとする。

$$(式1) GPA = \frac{(GP \times 時間数) の総和}{履修科目の総時間数}$$

卒業・進級の認定基準

（概要）

当校における卒業及び進級の認定は進級・卒業審査で行っている。この審査では担任が予め作成した個人ごとの評価資料（定期試験結果、出席、資格の取得状況、卒業・修了作品の評価、学費の納入状況等）を基に進級及び卒業の要件に照らし合わせ、それぞれの評価項目で基準に達していることを条件に認定を行っている。

また、進級及び卒業要件は「学生の手引き」に記載しており年度初めに学生に公表している。

学修支援等

（概要）

入学後のオリエンテーションにて学科概要を説明

龍馬学園就職支援部と協力した就職指導

個別面談で学生の状況を把握（場合によっては保護者も交える）

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
25人 (100%)	3人 (12%)	20人 (80%)	2人 (8%)
(主な就職、業界等) デザイン・印刷業界及びWeb制作業			
(就職指導内容) クラス担任、就職専任スタッフ、産業カウンセラーによるトリプルサポート体制で、学生アンケートをもとに、きめ細かな就職指導の体制を取るとともに、県内・外の様々な企業を招いて、龍馬学園単独の「企業セミナー」を開催するなど、総合専門学校ならではの、スケールメリットを活かして、学生たちの就職をサポートしている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 色彩検定3級 イラストレータークリエイター能力認定試験スタンダード フォトショップクリエイター能力認定試験スタンダード			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
47人	1人	2.1%
(中途退学の主な理由) 進路の変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 個人面談又は三者面談を行い学生の状況把握に努める。また、気になる学生については教職員間の情報交換や報告をスピーディーに行なっている。		

①-2 学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養関係 専門課程	マンガ科	○	-		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授 業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1894時間	100 時間	294 時間	1500時 間	0 時間	0 時間
			2008時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		22人	0人	3人	6人	9人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）
マンガ科
1コマ漫画・4コマ漫画をはじめ、劇画・コミックなど様々な表現方法を身につける。
漫画家・コミックイラストレーターとして必要な考察力・想像力を高め、商業雑誌で要求される表現テクニックや、漫画家のアシスタントに要求される技術を習得した人材育成を目指しており、それぞれの授業すべてにおいて、年間のシラバス及びコマシラバスを作成し実施している。一コマは50分。

成績評価の基準・方法

（概要）
成績評価の基準はグレード・ポイント・アベレージ（履修科目の成績の平均値。以下「GPA」という。）制度による評価について必要な事項を定め、透明性のある成績評価を行っている。
GPAは、次の式により計算するものとし、その数に小数点以下第二位未満の端数があるときは、小数点以下第三位の値を四捨五入するものとする。
(式1) $GPA = \frac{(GP \times \text{時間数}) \text{の総和}}{\text{履修科目の総時間数}}$

卒業・進級の認定基準

（概要）
当校における卒業及び進級の認定は進級・卒業審査で行っている。この審査では担任が予め作成した個人ごとの評価資料（定期試験結果、出席、資格の取得状況、卒業・修了作品の評価、学費の納入状況等）を基に進級及び卒業の要件に照らし合わせ、それぞれの評価項目で基準に達していることを条件に認定を行っている。
また、進級及び卒業要件は「学生の手引き」に記載しており年度初めに学生に公表している。

学修支援等

（概要）
入学後のオリエンテーションにて学科概要を説明
龍馬学園就職支援部と協力した就職指導
個別面談で学生の状況を把握（場合によっては保護者も交える）

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
11人 (100%)	0人 (0%)	5人 (45.4%)	6人 (54.5%)
(主な就職、業界等) (株) アイレップ・(有) ベークショップヒジリ・オリエントホテル高知他			
(就職指導内容) クラス担任、就職専任スタッフ、産業カウンセラーによる トリプルサポート体制で、学生アンケートをもとに、きめ細かな就職指導の体制を取るとともに、県内・外の様々な企業を招いて、龍馬学園単独の「企業セミナー」を開催するなど、総合専門学校ならではの、スケールメリットを活かして、学生たちの就職をサポートしている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 色彩検定 3 級 イラストレータークリエイター能力認定試験スタンダード フォトショップクリエイター能力認定試験スタンダード 漫画家アシスタント検定 3 級・2 級			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
22人	2人	9.0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 個人面談又は三者面談を行い学生の状況把握に努める。また、気になる学生については教職員間の情報交換や報告をスピーディーに行なっている。		

①-3 学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養関係 専門課程	総合研究科	-	-		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	1000時間	50 時間	0時間	950 時間	0時間	0時間
			1000時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20人		3人	0人	4人	5人	9人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）
総合研究科
コース選択制により更なる専門性の追求とともに、上級資格や技術を修得できる人材育成を目指すための授業計画を行っている。それぞれの授業すべてにおいて、年間のシラバス及びコマシラバスを作成し実施している。一コマは50分。

成績評価の基準・方法

（概要）
成績評価の基準はグレード・ポイント・アベレージ（履修科目の成績の平均値。以下「GPA」という。）制度による評価について必要な事項を定め、透明性のある成績評価を行っている。
GPAは、次の式により計算するものとし、その数に小数点以下第二位未満の端数があるときは、小数点以下第三位の値を四捨五入するものとする。

$$(式1) GPA = \frac{(GP \times \text{時間数}) \text{の総和}}{\text{履修科目の総時間数}}$$

卒業・進級の認定基準

（概要）
当校における卒業及び進級の認定は進級・卒業審査で行っている。この審査では担任が予め作成した個人ごとの評価資料（定期試験結果、出席、資格の取得状況、卒業・修了作品の評価、学費の納入状況等）を基に進級及び卒業の要件に照らし合わせ、それぞれの評価項目で基準に達していることを条件に認定を行っている。
また、進級及び卒業要件は「学生の手引き」に記載しており年度初めに学生に公表している。

学修支援等

（概要）
入学後のオリエンテーションにて学科概要を説明
龍馬学園就職支援部と協力した就職指導
個別面談で学生の状況を把握（場合によっては保護者も交える）

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
3人 (100%)	0人 (0%)	1人 (33.3%)	2人 (66.6%)
（主な就職、業界等） ㈱神戸デザインクリエイティブ			
（就職指導内容） クラス担任、就職専任スタッフ、産業カウンセラーによる トリプルサポート体制で、学生アンケートをもとに、きめ細かな就職指導の体制を取るとともに、県内・外の様々な企業を招いて、龍馬学園単独の「企業セミナー」を開催するなど、総合専門学校ならではの、スケールメリットを活かして、学生たちの就職をサポートしています。			
（主な学修成果（資格・検定等）） Illustrator クリエイター能力認定試験 Photoshop クリエイター能力認定試験 色彩検定 色彩活用パーソナルカラー検定 漫画能力検定 ネイリスト技能検定 ジェルネイル技能検定			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 個人面談又は三者面談を行い学生の状況把握に努める。また、気になる学生については教職員間の情報交換や報告をスピーディーに行なっている。		

①-4 学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業関係		工業関係専門課程	自動車整備科	○	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2233 単位時間/単位	933 時間	時間	1300 時間	時間	時間
			2195 時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		36人	0人	4人	3人	7人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>自動車整備科</p> <p>自動車整備士に必要な基礎知識と基礎技術の習得を第一の目標とし、通常授業以外に加え、企業との連携授業や各種検定資格取得講義を実施している。また、ビジネスマナーの習得、コミュニケーション能力の向上を図り、自動車業界で活躍できる人材育成を目指しており、それぞれの授業すべてにおいて、年間のシラバス及びコマシラバスを作成し実施している。一コマは50分。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>成績評価の基準はグレード・ポイント・アベレージ (履修科目の成績の平均値。以下「GPA」という。) 制度による評価について必要な事項を定め、透明性のある成績評価を行っている。</p> <p>GPAは、次の式により計算するものとし、その数に小数点以下第二位未満の端数があるときは、小数点以下第三位の値を四捨五入するものとする。</p> $(式1) GPA = \frac{(GP \times 時間数) の総和}{履修科目の総時間数}$
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>当校における卒業及び進級の認定は進級・卒業審査で行っている。この審査では担任が予め作成した個人ごとの評価資料 (定期試験結果、出席、資格の取得状況、卒業・修了作品の評価、学費の納入状況等) を基に進級及び卒業の要件に照らし合わせ、それぞれの評価項目で基準に達していることを条件に認定を行っている。</p> <p>また、進級及び卒業要件は「学生の手引き」に記載しており年度初めに学生に公表している。</p>
学修支援等
<p>入学後のオリエンテーションにて学科概要を説明</p> <p>龍馬学園就職支援部と協力した就職指導</p> <p>個別面談で学生の状況を把握 (場合によっては保護者も交える)</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
21人 (100%)	0人 (0%)	21人 (100%)	人 (0%)
（主な就職、業界等） 自動車ディーラー			
（就職指導内容） クラス担任、就職専任スタッフ、産業カウンセラーによる トリプルサポート体制で、学生アンケートをもとに、きめ細かな就職指導の体制を取るとともに、県内・外の様々な企業を招いて、龍馬学園単独の「企業セミナー」を開催するなど、総合専門学校ならではの、スケールメリットを活かして、学生たちの就職をサポートしている。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 2級ガソリン自動車整備士 2級ジーゼル自動車整備士 中古自動車査定士			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
36人	3人	8.3%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 個人面談又は三者面談を行い学生の状況把握に努める。また、気になる学生については教職員間の情報交換や報告をスピーディーに行なっている。		

①-5 学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業関係		工業関係専門課程	建築・インテリアデザイン科	○	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2170 時間	434 時間	496 時間	1240 時間	0 時間	0 時間
			2294 時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		62 人	0 人	3 人	12 人	15 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

建築・インテリアデザイン科

建築設計や施工管理者として活躍できる技能や専門知識を身につけ、建築に関する法規や一般構造、家具デザインの基礎やデザイナーの資質などについても総合的に理解させている。単に建築意匠や空間の装飾にとどまらず、ライフスタイルそのものを提案できる設計力、施工現場にて作り上げていく管理能力などを兼ね備えた人材の育成を目指しており、それぞれの授業すべてにおいて、年間のシラバス及びコマシラバスを作成し実施している。一コマは 50 分。

成績評価の基準・方法

（概要）

成績評価の基準はグレード・ポイント・アベレージ（履修科目の成績の平均値。以下「GPA」という。）制度による評価について必要な事項を定め、透明性のある成績評価を行っている。

GPAは、次の式により計算するものとし、その数に小数点以下第二位未満の端数があるときは、小数点以下第三位の値を四捨五入するものとする。

$$(式1) GPA = \frac{(GP \times \text{時間数}) \text{の総和}}{\text{履修科目の総時間数}}$$

卒業・進級の認定基準

（概要）

当校における卒業及び進級の認定は進級・卒業審査で行っている。この審査では担任が予め作成した個人ごとの評価資料（定期試験結果、出席、資格の取得状況、卒業・修了作品の評価、学費の納入状況等）を基に進級及び卒業の要件に照らし合わせ、それぞれの評価項目で基準に達していることを条件に認定を行っている。

また、進級及び卒業要件は「学生の手引き」に記載しており年度初めに学生に公表している。

学修支援等

（概要）

入学後のオリエンテーションにて学科概要を説明

龍馬学園就職支援部と協力した就職指導

個別面談で学生の状況を把握（場合によっては保護者も交える）

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
29人 (100%)	13人 (44.8%)	13人 (44.8%)	3人 (10.3%)
（主な就職、業界等） 建設会社、工務店 等			
（就職指導内容） クラス担任、就職専任スタッフ、産業カウンセラーによる トリプルサポート体制で、学生アンケートをもとに、きめ細かな就職指導の体制を取るとともに、県内・外の様々な企業を招いて、龍馬学園単独の「企業セミナー」を開催するなど、総合専門学校ならではの、スケールメリットを活かして、学生たちの就職をサポートしている。			
（主な学修成果（資格・検定等）） インテリア設計士2級 建築CAD検定3級 色彩検定3級			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
62人	3人	4.8%
（中途退学の主な理由） 進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 個人面談又は三者面談を行い学生の状況把握に努める。また、気になる学生については教職員間の情報交換や報告をスピーディーに行なっている。		

①-6 学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業関係		工業関係専門課程	二級建築士専攻科		—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	935時間	0時間	735時間	200時間	0時間	0時間
			935時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20人		14人	0人	2人	1人	3人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)

(概要)

二級建築士専攻科

二級建築士及び木造建築士の受験資格を有する者を対象に、国家資格の二級建築士に必要な知識と技術を身につけた人材の育成を目指しており、それぞれの授業すべてにおいて、年間のシラバス及びコマシラバスを作成し実施している。一コマは50分。

成績評価の基準・方法

(概要)

成績評価の基準はグレード・ポイント・アベレージ (履修科目の成績の平均値。以下「GPA」という。) 制度による評価について必要な事項を定め、透明性のある成績評価を行っている。

GPAは、次の式により計算するものとし、その数に小数点以下第二位未満の端数があるときは、小数点以下第三位の値を四捨五入するものとする。

$$(式1) GPA = \frac{(GP \times \text{時間数}) \text{の総和}}{\text{履修科目の総時間数}}$$

卒業・進級の認定基準

(概要)

当校における卒業及び進級の認定は進級・卒業審査で行っている。この審査では担任が予め作成した個人ごとの評価資料 (定期試験結果、出席、資格の取得状況、卒業・修了作品の評価、学費の納入状況等) を基に進級及び卒業の要件に照らし合わせ、それぞれの評価項目で基準に達していることを条件に認定を行っている。

また、進級及び卒業要件は「学生の手引き」に記載しており年度初めに学生に公表している。

学修支援等

(概要)

入学後のオリエンテーションにて学科概要を説明

龍馬学園就職支援部と協力した就職指導

個別面談で学生の状況を把握 (場合によっては保護者も交える)

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
14人 (100%)	0人 (0%)	11人 (78.6%)	3人 (21.4%)
（主な就職、業界等） 建築設計事務所、ハウスメーカー、工務店 等			
（就職指導内容） クラス担任、就職専任スタッフ、産業カウンセラーによる トリプルサポート体制で、学生アンケートをもとに、きめ細かな就職指導の体制を取るとともに、県内・外の様々な企業を招いて、龍馬学園単独の「企業セミナー」を開催するなど、総合専門学校ならではの、スケールメリットを活かして、学生たちの就職をサポートしている。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 二級建築士 建築 CADS 検定 2 級			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
14人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 個人面談又は三者面談を行い学生の状況把握に努める。また、気になる学生については教職員間の情報交換や報告をスピーディーに行なっている。		

①-7 学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
衛生関係		衛生関係専門課程	美容総合学科	○	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2010 単位時間/単位	660 時間	時間	1350 時間	時間	時間
			2337 時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		47人	0人	6人	9人	15人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)

<p>(概要)</p> <p>美容総合学科</p> <p>高度な知識と即戦力となる技術を習得し、美容業界に貢献できる高い意識をもった人材を養成し、国家資格である美容師免許の取得を目指す。社会人としての人間力や常識を備えた次世代を担う技術者を養成すると共に、コース選択制導入を最大限活かし多角的に美容業界で活躍できる人材育成を目指しており、それぞれの授業すべてにおいて、年間のシラバス及びコマシラバスを作成し実施している。一コマは50分。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要)</p> <p>成績評価の基準はグレード・ポイント・アベレージ (履修科目の成績の平均値。以下「GPA」という。) 制度による評価について必要な事項を定め、透明性のある成績評価を行っている。</p> <p>GPAは、次の式により計算するものとし、その数に小数点以下第二位未満の端数があるときは、小数点以下第三位の値を四捨五入するものとする。</p> <p>(式1) $GPA = \frac{(GP \times \text{時間数}) \text{の総和}}{\text{履修科目の総時間数}}$</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>当校における卒業及び進級の認定は進級・卒業審査で行っている。この審査では担任が予め作成した個人ごとの評価資料 (定期試験結果、出席、資格の取得状況、卒業・修了作品の評価、学費の納入状況等) を基に進級及び卒業の要件に照らし合わせ、それぞれの評価項目で基準に達していることを条件に認定を行っている。</p> <p>また、進級及び卒業要件は「学生の手引き」に記載しており年度初めに学生に公表している。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>入学後のオリエンテーションにて学科概要を説明 龍馬学園就職支援部と協力した就職指導 個別面談で学生の状況を把握 (場合によっては保護者も交える)</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
25人 (100%)	0人 (0%)	24人 (96%)	1人 (4%)
（主な就職、業界等） 美容室			
（就職指導内容） クラス担任、就職専任スタッフ、産業カウンセラーによる トリプルサポート体制で、学生アンケートをもとに、きめ細かな就職指導の体制を取るとともに、県内・外の様々な企業を招いて、龍馬学園単独の「企業セミナー」を開催するなど、総合専門学校ならではの、スケールメリットを活かして、学生たちの就職をサポートしている。			
（主な学修成果（資格・検定等）） アイコーディネーター検定 ネイリスト技能検定 ジェルネイル技能検定 サービス接客検定 色彩活用パーソナルカラー検定 准福祉理美容士			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
47人	2人	4.3%
（中途退学の主な理由） 病気により就学が困難。他学科への転科		
（中退防止・中退者支援のための取組） 個人面談又は三者面談を行い学生の状況把握に努める。また、気になる学生については教職員間の情報交換や報告をスピーディーに行なっている。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他 (教育充実費)	備考 (任意記載事項)
グラフィックデザイン科	100,000 円	740,000 円	300,000 円	
マンガ科	100,000 円	740,000 円	300,000 円	
総合研究科	100,000 円	200,000 円	100,000 円	
自動車整備科	100,000 円	740,000 円	340,000 円	
建築・インテリアデザイン科	100,000 円	740,000 円	320,000 円	
二級建築士専攻科	100,000 円	400,000 円	100,000 円	
美容総合学科	100,000 円	680,000 円	240,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				
■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有 ◆龍馬学園奨学金、資格・検定等特待生授業料免除、日本支援機構奨学金 ■専門実践教育訓練給付： 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https:// www.ryoma.ac.jp/disclosure_file/info/cid-2018tenken.pdf		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
学校関係者評価実施委員会では、実践的な職業教育の質を確保するため教育活動及び学校運営の状況を把握し意見交換等を通じて、本校の自己評価の結果を客観的に評価し、改善点を見出すことを目的としており、当校の職員及び学外の専門領域に関する有識者等で構成し実施し、その結果を校長に報告する。 評価結果の活用方法としては、教育内容に関しては教育課程編成委員会（実施責任機関）に反映させて新たなカリキュラムの改善を図っている。その他学校運営に関することは運営委員会及び職員会議等で方策・改善点等を検討し学校運営全体の品質向上に努めている。 委員会を構成する委員は5名以上とし、本校の職員以外の者で、保護者、本校の卒業生、地域住民、地元企業関係者、高等学校関係者、その他教育に関する有識者の内から校長が任命する。任期は2年間とし重任再任を妨げない。委員の互選により委員長、副委員長を置く。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
保護者	平成30年8月～令和2年7月 (2年間)	保護者
旭二丁目町内会	平成30年8月～令和2年7月 (2年間)	地域住民
㈱アボカド ゼネラルマネージャー	平成30年8月～令和2年7月 (2年間)	地元企業関係者 マンガ関係
建築生活空間研究企画室 代表	平成30年8月～令和2年7月 (2年間)	地元企業関係者 建築関係
グラフィックデザイン事務所 代表	平成30年8月～令和2年7月 (2年間)	卒業生 グラフィック関係
高知県自動車整備振興会青年部 会長	平成30年8月～令和2年7月 (2年間)	地元企業関係者 自動車関係

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請の場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	国際デザイン・ビューティカレッジ
設置者名	学校法人 龍馬学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		0人	0人	0人
内 訳	第Ⅰ区分	人	人	
	第Ⅱ区分	人	人	
	第Ⅲ区分	人	人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				0人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人
(備考)					

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの 限り、認定専攻科を含む。）、高等 専門学校（認定専攻科を含む。）及 び専門学校（修業年限が2年以下の ものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間数 が標準時間数の6割以下)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	0人	0人	0人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

○添付書類

※ 以下の事項を必ず確認し、必要な書類の□にレ点 (☑) を付けた上で、これらの書類を添付してください。(設置者の法人類型ごとに添付する資料が異なることに注意してください。)

「(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置」関係

- 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表《省令で定める単位数等の基準数相当分》
- 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書(シラバス)《省令で定める単位数等の基準数相当分》

「(2)-①学外者である理事の複数配置」関係

- 《一部の設置者のみ》大学等の設置者の理事(役員)名簿

「(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置」関係

- 《一部の設置者のみ》大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織に関する規程とその構成員の名簿

「(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表」関係

- 客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料
- 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書(シラバス)【再掲】

その他

- 《私立学校のみ》経営要件を満たすことを示す資料
- 確認申請を行う年度において設置している学部等の一覧

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

課程名	学科名	学年	コース	授業科目	授業時間数	実務経験の有る教員による授業科目	シラバス	教員
文化・教養関係専門課程	グラフィックデザイン科	1		デッサン	111	○	○	川崎
				色彩演習	99	○	○	山崎
				広告論1	70	○	○	都築
				写真実習1	70	○	○	前田
				コピー&プランニング1	70	○	○	上岡
				タイポグラフィ	74	○	○	松井
				印刷学	37	○	○	松井
				一般常識	40	○	○	宮上
				WEBデザイン1	80	○	○	杉本
				ベーシックデザイン	102	○	○	中平
				広告実習1	99	○	○	桑名
				業界研究	35	○	○	中平
				総時間数	887	887		

課程名	学科名	学年	コース	授業科目	授業時間数	実務経験の有る教員による授業科目	シラバス	教員
文化・教養関係専門課程	グラフィックデザイン科	2		広告論2	31	○	○	都築
				広告実習2	62	○	○	都築
				タイポグラフィ2	66	○	○	松井
				C.I.計画	33	○	○	松井
				写真実習2	66	○	○	前田
				コピー&プランニング2	66	○	○	上岡
				WEBデザイン2	124	○	○	杉本
				インデザイン実習	62	○	○	横飛
				DTP実習	62	○	○	桑名
				研究実習	38	○	○	桑名
				イラストレーション(選択)	207	○	○	中平
				アドバタイジング(選択)		○	○	桑名
				C.I.実習	76	○	○	桑名
				フィニッシュワーク	31	○	○	桑名
				総時間数	924	924		

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

課程名	学科名	学年	コース	授業科目	授業時間数	実務経験の有る教員による授業科目	シラバス	教員
文化・教養関係専門課程	マンガ科	1		マンガベーシック	96	○	○	安岡
				背景図法1	171	○	○	安岡
				マンガ演習	66	○	○	岩神
				プロット&ネーム	72	○	○	岩神
				デザインPC	72	○	○	岩神
				ドローイング	105	○	○	川崎
				デジタルコミック	144	○	○	安岡
				色彩演習	105	○	○	山崎
				ビジネスPC	66	○	○	森岡
				一般常識	36	○	○	宮上
				ビジネスマナー	72	○	○	西峯
				修了制作		○		岩神
総時間数					1,005	1005		

課程名	学科名	学年	コース	授業科目	授業時間数	実務経験の有る教員による授業科目	シラバス	教員
文化・教養関係専門課程	マンガ科	2		コミックワーク	248	○	○	安岡
				デザインPC	56	○	○	岩神
				デジタルイラスト	81	○	○	関
				マンガ演習	137	○	○	岩神
				背景図法2	216	○	○	窪内
				マンガテクニカル	60	○	○	窪内
				デジタルコミック	112	○	○	関
				卒業制作		○		安岡
				総時間数				

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

課程名	学科名	学年	コース	授業科目	授業時間数	実務経験の有る教員による授業科目	シラバス	教員
工業関係 専門課程	自動車整備科	1		自動車整備エンジン	94	○	○	筒井
				自動車整備シャシ	94	○	○	川村
				電気・電子理論、電気装置	46	○	○	川村
				自動車の力学・数学	50	○	○	筒井
				材料	20	○	○	市川
				燃料及び潤滑油	20	○	○	市川
				図面	20	○	○	筒井
				機器取扱い	34	○	○	市川
				自動車に関する法規	23	○	○	筒井
				社会研究	90	○	○	西峯・森岡・筒井
				実習Ⅰ	272	○	○	筒井
				実習Ⅱ	272	○	○	川村
総時間数					1,035		1035	

課程名	学科名	学年	コース	授業科目	授業時間数	実務経験の有る教員による授業科目	シラバス	教員
工業関係 専門課程	自動車整備科	2		自動車整備エンジン	90	○	○	筒井
				自動車整備シャシ	45	○	○	松岡
				電子及び電気理論と自動車整備電気装置	50	○	○	松岡
				自動車の力学	30	○	○	松岡
				故障探究	32	○	○	筒井・松岡
				検査	23	○	○	筒井
				社会研究	80	○	○	西峯・松岡
				実習1	400	○	○	高添・筒井
				実習2	400	○	○	松岡
				総時間数				

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

課程名	学科名	学年	コース	授業科目	授業時間数	実務経験の有る教員による授業科目	シラバス	教員
工業関係 専門課程	建築・インテリアデザイン科	1		設計製図Ⅰ	217	○	○	山中・松尾
				CAD実習Ⅰ	124	○	○	石元
				インテリアコーディネート	93	○	○	横飛
				モデリング	62	○	○	梅原
				パースペクティブ	62	○	○	横飛
				建築概論	31	○	○	濱口・北添
				施工実務Ⅰ	62	○	○	小原
				ベーシックデザイン	62	○	○	中平
				デザイン実習Ⅰ	62	○	○	石元・倉橋
				デザイン研究	62	○	○	横飛
				色彩設計	62	○	○	大倉
				ビジネスPC実習	62	○	○	森岡・松尾
				修了制作	62	○	○	石元
				総時間数	1,023		1023	

課程名	学科名	学年	コース	授業科目	授業時間数	実務経験の有る教員による授業科目	シラバス	教員
工業関係 専門課程	建築・インテリアデザイン科	2		設計製図Ⅱ	217	○	○	松尾
				CAD実習Ⅱ	93	○	○	石元
				建築設備	31	○	○	小原
				構造力学	31	○	○	北添
				一般構造	62	○	○	小原
				建築施工	31	○	○	武政
				建築法規	31	○	○	濱口
				3D CAD	93	○	○	山中
				ビジュアルデザイン	62	○	○	桑名
				ライティングデザイン	62	○	○	菅野
				施工実務Ⅱ	31	○	○	武政
				プレゼンテーション	62	○	○	横飛/松尾
				福祉住環境学	62	○	○	笹岡
				デザイン実習Ⅱ(選択)	62	○	○	梅原
				色彩演習(選択)	62	○	○	大倉
				建築研究(選択)	62	○	○	石元
				インテリア研究(選択)	62	○	○	倉橋/山中
				卒業制作	62	○	○	横飛/松尾
				総時間数	1,054		1054	

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

課程名	学科名	学年	コース	授業科目	授業時間数	実務経験のある教員による授業科目	シラバス	教員
文化・教養関係専門課程	総合研究科	1		(a)DTPデザイン	250	○	○	横飛
				(b)Webデザイン	250	○	○	杉本
				(c)デジタルイラストレーション	250	○	○	関
				(d)コミックワーク	250	○	○	岩神
				(e)デジタルコミック	250	○	○	関
				(f)インテリアコーディネート	250	○	○	横飛
				(g)3D CAD	250	○	○	山中
				(h)モデリング	252	○	○	梅原
				(i)美容総合技術 ヘッドスパ	250	○	○	廣瀬
				(j)美容総合技術 ヘアカラー	250	○	○	久川
				(k)美容総合技術 実務カット	250	○	○	横山
				※上記(a)～(k)の内4科目を選択。同一科目でも可				
総時間数					1,000		1000	

課程名	学科名	学年	コース	授業科目	授業時間数	実務経験のある教員による授業科目	シラバス	教員
工業関係専門課程	二級建築士専攻科	1		二級建築士対策	338	○	○	山中/松尾
				インテリアコーディネーター対策	315	○	○	石元
				研究	200	○	○	横飛
				卒業制作	82	○	○	横飛
				総時間数				

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

課程名	学科名	学年	コース	授業科目	授業時間数	実務経験の有る教員による授業科目	シラバス	教員
衛生関係 専門課程	美容総合 学科	1	スタイリ ストコース	関係法規・制度	25	○	○	宮上
				衛生管理	56	○	○	中村
				保健	58	○	○	斧山
				化粧品化学	45	○	○	久川
				美容技術理論	102	○	○	吉村
				美容実習①	454	○	○	吉村、中村、久川
				美容実習②	24	○	○	吉村
				運営管理	25	○	○	吉村
				文化論	45	○	○	山崎(紀)
				接遇	36	○	○	西峯
				一般教養	30	○	○	福重
				美容総美容総合技術 色彩学	54	○	○	山崎(道)
				美容総合技術 メイク・ベーシック	69	○	○	山崎(紀)
				美容総合技術 ヘアセット	30	○	○	吉村
				美容総合技術 ヘアデザイン	79	○	○	吉村、中村、久川
				美容総合技術 福祉美容	30	○	○	中村
総時間数					1,162		1162	

課程名	学科名	学年	コース	授業科目	授業時間数	実務経験の有る教員による授業科目	シラバス	教員				
衛生関係 専門課程	美容総合 学科	1	ネイル コース	関係法規・制度	25	○	○	宮上				
				衛生管理	56	○	○	中村				
				保健	58	○	○	斧山				
				化粧品化学	45	○	○	久川				
				美容技術理論	102	○	○	吉村				
				美容実習①	454	○	○	吉村、中村、久川				
				美容実習②	24	○	○	吉村				
				運営管理	25	○	○	吉村				
				文化論	45	○	○	山崎(紀)				
				接遇	36	○	○	西峯				
				一般教養	30	○	○	福重				
				美容総美容総合技術 色彩学	54	○	○	山崎(道)				
				美容総合技術 メイク・ベーシック	69	○	○	山崎(紀)				
				美容総合技術 ネイル・ベーシック	139	○	○	久川				
				総時間数					1,162		1162	

課程名	学科名	学年	コース	授業科目	授業時間数	実務経験の有る 教員による授業 科目	シラ パス	教員
衛生関係 専門課程	美容総合 学科	1	ビュー ティプライ ダルコー ス	関係法規・制度	25	○	○	宮上
				衛生管理	56	○	○	中村
				保健	58	○	○	斧山
				化粧品化学	45	○	○	久川
				美容技術理論	102	○	○	吉村
				美容実習①	454	○	○	吉村、中村、久川
				美容実習②	24	○	○	吉村
				運営管理	25	○	○	吉村
				文化論	45	○	○	山崎(紀)
				接遇	36	○	○	西峯
				一般教養	30	○	○	福重
				美容総合美容総合技術 色彩学	54	○	○	山崎(道)
				美容総合技術 メイク・ベーシック	69	○	○	山崎(紀)
				美容総合技術 メイク・アドバンス	49	○	○	山崎(紀)
				美容総合技術 着付け	60	○	○	斧山
				美容総合技術 プライダルセット	30	○	○	吉村
				総時間数	1,162	1162		

課程名	学科名	学年	コース	授業科目	授業時間数	実務経験の有る 教員による授業 科目	シラ パス	教員
衛生関係 専門課程	美容総合 学科	2	スタイリ ストコー ス	関係法規・制度	11	○	○	宮上
				衛生管理	54	○	○	中村
				保健	36	○	○	斧山
				化粧品化学	22	○	○	久川
				文化論	10	○	○	山崎(紀)
				美容技術理論	68	○	○	吉村
				運営管理	2	○	○	吉村
				美容実習①	541	○	○	吉村、中村
				接遇	30	○	○	西峯
				美容総合技術	50	○	○	久川
				美容総合技術 ヘッドスパ	60	○	○	廣瀬
				美容総合技術 アイラッシュ	30	○	○	光富
				美容総合技術 ヘアカラー	52	○	○	久川
				美容総合技術 カット	20	○	○	中村
				美容総合技術 セット	32	○	○	山崎(紀)
				美容総合技術 福祉美容	36			中村
				総時間数	1,054	1018		

課程名	学科名	学年	コース	授業科目	授業時間数	実務経験の有る 教員による授業 科目	シラ バス	教員
衛生関係 専門課程	美容総合 学科	2	ネイル コース	関係法規・制度	11	○	○	宮上
				衛生管理	54	○	○	中村
				保健	36	○	○	斧山
				化粧品化学	22	○	○	久川
				文化論	10	○	○	山崎(紀)
				美容技術理論	68	○	○	吉村
				運営管理	2	○	○	吉村
				美容実習①	541	○	○	吉村・中村
				接遇	30	○	○	西峯
				美容総合技術	50	○	○	久川
				美容総合技術 ヘッドスパ	60	○	○	廣瀬
				美容総合技術 アイラッシュ	30	○	○	光富
				美容総合技術 ネイルアドバンス	140	○	○	矢野
				総時間数	1,054	1054		

課程名	学科名	学年	コース	授業科目	授業時間数	実務経験の有る 教員による授業 科目	シラ バス	教員
衛生関係 専門課程	美容総合 学科	2	ビュー ティブライ ダルコー ス	関係法規・制度	11	○	○	宮上
				衛生管理	54	○	○	中村
				保健	36	○	○	斧山
				化粧品化学	22	○	○	久川
				文化論	10	○	○	山崎(紀)
				美容技術理論	68	○	○	吉村
				運営管理	2	○	○	吉村
				美容実習①	541	○	○	吉村・中村
				接遇	30	○	○	西峯
				美容総合技術	50	○	○	久川
				美容総合技術 ヘッドスパ	60	○	○	廣瀬
				美容総合技術 アイラッシュ	30	○	○	光富
				美容総合技術 フェイシャルエステ	52	○	○	久川
				美容総合技術 メイクアドバンス	56	○	○	山崎(紀)
				美容総合技術 ブライダルセット	32	○	○	山崎(紀)
				総時間数	1,054	1054		

学科別シラバス一覧表

日本語学科 2年コース 1年

授業科目	授業時間数	実務経験の有る 教員による授業科目	シラバス	教員
初級1	200		○	
初級 2	200		○	
中級 1	200		○	
中級 2	200		○	
総時間数	800		0	

日本語学科 2年コース 2年 1.5年コース

授業科目	授業時間数	実務経験の有る 教員による授業科目	シラバス	教員
上級 1	200		○	
上級 2	200		○	
上級 3	200		○	
上級 4	200		○	
総時間数	800		0	

日本語学科 1.5年コース 1年

授業科目	授業時間数	実務経験の有る 教員による授業科目	シラバス	教員
初級 2	200		○	
中級 1	200		○	
総時間数	400		0	

日本語学科 1.5年コース 2年

授業科目	授業時間数	実務経験の有る 教員による授業科目	シラバス	教員
中級 2	200		○	
上級 1	200		○	
上級 2	200		○	
上級 3	200		○	
総時間数	800		0	

令和2年度 シラバス

授業科目	デッサン	単位/時間	111h	
開講学科等	グラフィックデザイン科1年	担当教員	川崎敬子	
授業の目的・テーマ	人物クロッキー、鉛筆デッサンを通して本質を観る力を養う			
授業の到達目標	モノの形をよく観察し、表現でき、時間内に完成させる			
授業 の 計 画	1	4/10金 自己紹介・道具説明・はがきサイズイラスト	26	12/4金 デッサン絵本制作
	2	4/17金 スケッチ	27	12/11金 デッサン絵本制作
	3	2/24金 クロッキー・デッサン (立方体、球体など)	28	1/8金 制作期間
	4	5/1金 クロッキー・デッサン (立方体、球体など)	29	1/15金
	5	5/8金 クロッキー・デッサン (立方体、球体など)	30	1/22金
	6	5/15金 クロッキー・デッサン (静物など)	31	1/29金
	7	5/22金 クロッキー・デッサン (静物など)	32	2/5金
	8	6/5金 クロッキー・デッサン (静物など)	33	2/12金
	9	6/12金 スケッチ	34	2/19金
	10	6/19金 クロッキー・デッサン (人物デッサン)	35	2/26金
	11	6/26金 クロッキー・デッサン (人物デッサン)	36	3/5金
	12	7/3金 クロッキー・デッサン (人物デッサン)	37	3/12金 ▼
	13	7/10金 クロッキー・デッサン (人物デッサン)	38	
	14	8/4金 クロッキー・デッサン (色鉛筆)	39	
	15	9/11金 クロッキー・デッサン (静物など)	40	
	16	9/18金 クロッキー・デッサン (静物など)	41	
	17	9/25金 クロッキー・デッサン (静物など)	42	
	18	10/2金 クロッキー・デッサン (静物など)	43	
	19	10/9金 クロッキー・デッサン (静物など)	44	
	20	10/16金 クロッキー・デッサン (落ち葉)	45	
	21	10/23金 スケッチ	46	
	22	11/6金 デッサン絵本制作	47	
	23	11/13金 デッサン絵本制作	48	
	24	11/20金 デッサン絵本制作	49	
	25	11/27金 デッサン絵本制作	50	
授業の方法	ガウディホールでクロッキー・デッサン			
テキスト/参考文献				
評価の方法や基準	出席、課題評価、取り組み姿勢			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○	
実務経験	高知市広報紙のイラスト制作20年等			
実務経験の活かし方	社会性と、デッサンからのイラスト制作			
履修上の注意事項	学生が交代でクロッキーのモデルをする			

令和2年度 シラバス

授業科目	ウェブデザイン	単位/時間	124h	
開講学科等	グラフィックデザイン科 2年	担当教員	杉本憲昭	
授業の目的・テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェブサイト制作方法や応用的なHTML5/CSS3を知識を学ぶ。 ・テキストエディタを使い、HTML5/CSS3をマークアップ及びスタイリングをする。 ・デザインソフトを使い、デザインカンパを作成、マークアップ及びスタイリングを行う。 			
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインカンパを作成する。 ・ウェブサイト用に画像を書き出す。 ・HTML5/CSS3を使ってマークアップ及びスタイリングをする。 ・1つのウェブサイトを完成させる。 			
授業 の 計 画	1	5/29金 1年時の復習とウェブサイト企画	26	1/22金 HTML/CSSコーディング&サイト公開
	2	6/5金 ウェブサイト企画	27	1/29金 HTML/CSSコーディング&サイト公開
	3	6/12金 ウェブサイト企画プレゼン&レビュー	28	2/5金 制作期間
	4	6/19金 デザインカンパ作成	29	2/12金
	5	6/26金 デザインカンパ作成	30	2/19金
	6	7/3金 デザインカンパ作成	31	2/26金
	7	7/10金 デザインカンパ作成	32	
	8	7/17金 デザインカンパ中間プレゼン&レビュー	33	
	9	8/28金 デザインカンパ作成	34	
	10	9/4金 デザインカンパ作成	35	
	11	9/11金 デザインカンパ作成	36	
	12	9/18金 デザインカンパ作成	37	
	13	9/25金 デザインカンパ完成プレゼン&レビュー	38	
	14	10/2金 HTML/CSSコーディング	39	
	15	10/9金 HTML/CSSコーディング	40	
	16	10/16金 HTML/CSSコーディング	41	
	17	10/23金 HTML/CSSコーディング中間レビュー	42	
	18	11/6金 HTML/CSSコーディング	43	
	19	11/13金 HTML/CSSコーディング	44	
	20	11/20金 HTML/CSSコーディング	45	
	21	11/27金 HTML/CSSコーディング中間レビュー	46	
	22	12/4金 HTML/CSSコーディング	47	
	23	12/11金 HTML/CSSコーディング	48	
	24	1/8金 HTML/CSSコーディング	49	
	25	1/15金 HTML/CSSコーディング完成レビュー	50	
授業の方法	実習（一部講義）			
テキスト/参考文献	今すぐ使えるかんたんPLUS+ HTML5&CSS3 完全大事典			
評価の方法や基準	出席率及び、ウェブ制作の理解度・完成度、授業を受ける姿勢を評価します。			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する ○				
実務経験	<p>8年間、イベント&ウェブ制作会社にてモバイルサイト制作のウェブディレクション及び制作を担当。2年間、ウェブ制作会社にて企画営業部チーフとして地方自治体、中小企業のウェブディレクションを担当。6年間、フリーランスとしてプランニング/ディレクションを中心に県内外のウェブ制作・運営に携わる。2011年11月ウェブクリエイターズ高知を設立し、代表として地元のウェブ制作業界を盛り上げるために毎月1回の勉強会のべ70回以上開催（参加者のべ1,000名以上）。現在は、イベント&ウェブ制作会社の高知担当プロデューサーとして、中小企業を中心にウェブ制作・運営を担当。ウェブディレクション歴19年、HTML/CSSコーディング歴8年。</p>			
実務経験の活かし方	19年ウェブ制作業界で業務をしてきた経験と、8年のHTML/CSSコーディングをしてきた経験から、教科書だけではわからない、実際のウェブ制作業界の実情に合わせた、知識や技術、ノウハウを活かした講義ができるのではないかと思います。			
履修上の注意事項	持参物：USBメモリ、メモ用紙、筆記用具等			

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

課程名	学科名	学年	コース	授業科目	授業時間数	実務経験のある教員による授業科目	シラバス	教員
文化・教養関係専門課程	総合研究科	1		(a)DTPデザイン	250	○	○	横飛
				(b)Webデザイン	250	○	○	杉本
				(c)デジタルイラストレーション	250	○	○	関
				(d)コミックワーク	250	○	○	岩神
				(e)デジタルコミック	250	○	○	関
				(f)インテリアコーディネート	250	○	○	横飛
				(g)3D CAD	250	○	○	山中
				(h)モデリング	252	○	○	梅原
				(i)美容総合技術 ヘッドスパ	250	○	○	廣瀬
				(j)美容総合技術 ヘアカラー	250	○	○	久川
				(k)美容総合技術 実務カット	250	○	○	横山
				※上記(a)～(k)の内4科目を選択。同一科目でも可				
総時間数					1,000	1000		

課程名	学科名	学年	コース	授業科目	授業時間数	実務経験のある教員による授業科目	シラバス	教員
工業関係専門課程	二級建築士専攻科	1		二級建築士対策	338	○	○	山中/松尾
				インテリアコーディネーター対策	315	○	○	石元
				研究	200	○	○	横飛
				卒業制作	82	○	○	横飛
				総時間数				935

令和 2年度 シラバス

授業科目	背景図法1	単位/時間	171h	
開講学科等	マンガ科 1年	担当教員	安岡 貴広	
授業の目的・テーマ	さまざまなパターンの背景作画・処理を覚えて、自分の作品に活かす。			
授業の到達目標	作画・処理の方法を覚える。			
授業 の 計 画	1	背景についての解説	26	建物の作画
	2	木・茂みの表現	27	建物の作画
	3	木・茂みの表現	28	建物の作画
	4	天候表現	29	修了制作
	5	天候表現	30	修了制作
	6	天候表現	31	修了制作
	7	石・岩の表現	32	修了制作
	8	石・岩の表現	33	
	9	石・岩の表現	34	
	10	水の表現	35	
	11	水の表現	36	
	12	水の表現	37	
	13	前期の振り返り課題	38	
	14	前期の振り返り課題	39	
	15	前期の振り返り課題	40	
	16	爆発の表現	41	
	17	爆発の表現	42	
	18	爆発の表現	43	
	19	パースの概要解説	44	
	20	一点透視図法	45	
	21	二点透視図法	46	
	22	三点透視図法	47	
	23	建物の作画	48	
	24	建物の作画	49	
	25	建物の作画	50	
授業の方法	作画のポイントを記したプリントを配布し、実演、実習を行う。			
テキスト/参考文献	オリジナルテキスト、背景カタログ			
評価の方法や基準	作画技術 (90%) 出席 (10%)			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○	
実務経験	地元タウン情報誌で4コママンガを1年間掲載。			
実務経験の活かし方	作品の雰囲気に合わせて作画・処理の仕方についてレクチャーを行う。			
履修上の注意事項	マンガベーシックで履修した技術の応用			

令和 元年度シラバス

授業科目	マンガ演習	単位/時間	137 h	
開講学科等	マンガ科 2年	担当教員	岩神 義宏	
授業の目的・テーマ	リアル表現を行うことで質感表現のレベルを上げる。			
授業の到達目標	【前期】 車のリアルな表現を身につける 【後期】 住宅の仕上げのブラッシュアップをし陰影処理の省略方法を身に付ける			
授業 の 計 画	1	自己紹介・車のリアル表現	26	卒業制作
	2	車のリアル表現	27	卒業制作
	3	車のリアル表現	28	卒業制作
	4	車のリアル表現	29	卒業制作
	5	車のリアル表現	30	卒業制作
	6	車のリアル表現	31	卒業制作
	7	車のリアル表現	32	卒業制作
	8	車のリアル表現	33	
	9	車のリアル表現	34	
	10	車のリアル表現	35	
	11	車のリアル表現	36	
	12	車のリアル表現	37	
	13	住宅のブラッシュアップ (陰影処理)	38	
	14	住宅のブラッシュアップ (陰影処理)	39	
	15	住宅のブラッシュアップ (陰影処理)	40	
	16	住宅のブラッシュアップ (陰影処理)	41	
	17	住宅のブラッシュアップ (陰影処理)	42	
	18	住宅のブラッシュアップ (陰影処理)	43	
	19	住宅のブラッシュアップ (陰影処理)	44	
	20	住宅のブラッシュアップ (陰影処理)	45	
	21	卒業制作	46	
	22	卒業制作	47	
	23	卒業制作	48	
	24	卒業制作	49	
	25	卒業制作	50	
授業の方法	写真を用いたトレース・仕上げや、写真から起こした線画に陰影処理を施す。			
テキスト/参考文献	写真資料等			
評価の方法や基準	作画技能 (90%) 出席状況 (10%)			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○	
実務経験	漫画家			
実務経験の活かし方	実務での経験を学生個々の力量に合わせて指導していく			
履修上の注意事項	質感表現に留意する			

令和 2年度 シラバス

授業科目	自動車整備エンジン	単位/時間	94h
開講学科等	自動車整備科 1年	担当教員	筒井
授業の目的・テーマ	主にガソリンエンジンについて、基本となる各構成部品の名称や作動、必要性等について専門知識の基礎を習得する		
授業の到達目標	内燃機関の各装置の基本構造・作動等に関する、三級ガソリン自動車整備士試験の過去問について合格程度の学力をつける。		
授業 の 計 画	1 概要	26	中間試験解説
	2 基本的知識、作動解説	27	点火装置の原理
	3 点火及びバルブ機構による分類	28	IGコイル・イグナイタ・プラグ
	4 4サイクル及び2サイクルの作動	29	電子制御燃料噴射装置の概要
	5 バルブ・タイミング	30	電子制御燃料噴射装置の構造、機能
	6 燃焼及び排出ガス浄化装置	31	制御系統
	7 //	32	//
	8 エンジン本体の構造・機能	33	車両故障診断、整備
	9 //	34	後期末試験
	10 整備と測定点検	35	試験解説
	11 前期復習	36	1年間のまとめと復習
	12 前期末試験	37	
	13 試験解説、前期まとめ	38	
	14 前期まとめ、潤滑装置	39	
	15 潤滑装置の構造・機能	40	
	16 潤滑装置の整備、点検	41	
	17 冷却装置概要、構造	42	
	18 ウォータポンプ・ラジエータ	43	
	19 //	44	
	20 サーモスタット	45	
	21 燃料装置の基礎	46	
	22 燃料ポンプ・インジェクタ	47	
	23 吸排気装置	48	
	24 点検、修正、分解組立の要点	49	
	25 後期中間試験	50	
授業の方法	講義		
テキスト/参考文献	三級自動車ガソリンエンジン ガソリンエンジン構造 基礎工学		
評価の方法や基準	授業態度、出席状況、小テストや期末試験による評価		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	元自動車整備士		
実務経験の活かし方	整備士として仕事をしている時に必要とした知識については、その状況など実例をあげ、説明する。		
履修上の注意事項	授業中に書かれた黒板を板書するだけでなく、説明時には教科書やノートにメモを取ること		

令和 2 年度 シラバス

授業科目	自動車整備シヤシ	単位/時間	45 h
開講学科等	自動車整備科 2年	担当教員	松岡 邦朗
授業の目的・テーマ	自動車で現在使われている機構・装置を中心に駆動、制動、走行、安全装置を学ぶ。 教科書にない安全装置なども、外部資料等を参考に学習する。 また、それぞれについての故障探究も学ぶ。		
授業の到達目標	各装置の名称・作動・構造の説明ができる。 各装置の故障探究において、故障個所を正確に特定し、修理手順と方法の説明ができる。 2級自動車整備士試験の問題で、正解を導き出せる。		
授業 の 計 画	1	1年次の復習	26 後期中間試験
	2	動力伝達装置	27 中間試験の解答と解説
	3		28
	4	オートマチック・トランスミッション	29 排気ブレーキ、エディーカーレントリターダ
	5		30 フレーム及びボディー
	6	マニュアル、オートマの整備	31 エア・油圧ブレーキの構造と整備
	7		32
	8	アクスル及びサスペンション	33 フル・エアブレーキの構造と整備
	9		34
	10	パワーステアリングの構造と整備	35 期末試験
	11		36 期末試験の解答と解説
	12	前期末試験	37
	13	前期末試験の解答と解説	38 検定試験に出題される問題の解き方
	14	ホイール及びタイヤ	39
	15		40
	16	タイヤの変形、発熱、摩耗	41
	17		42
	18		43
	19	ホイールアライメント	44
	20		45
	21	ブレーキ装置	46
	22	エア・油圧ブレーキの構造と整備	47
	23	制動特性とコーナリング特性	48
	24	ABSの構造と作動	49
	25	トラクションコントロール	50
授業の方法	講義		
テキスト/参考文献	2級シヤシ シヤシ構造Ⅰ シヤシ構造Ⅱ		
評価の方法や基準	各期末テストで60点以上の成績を収めること。(A:85~100 B:84~70 C:69~60 D:59以下) 点数が未達の場合は、追試験において60点以上の成績を収めること。(59以下は不合格)		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	元整備士		
実務経験の活かし方	メーカーごとの違い等を説明し、教科書以外の補足として活用する		
履修上の注意事項	教科書の内容以外のことも多いので、きちんとノートにまとめる		

令和2年度 シラバス

授業科目	設計製図 I	単位/時間	217h
開講学科等	建築・インテリアデザイン科	担当教員	山中 貴記 松尾 優子
授業の目的・テーマ	図面の持つ役割、機能を理解することを学ぶ。作成の約束事を学ぶ。/各製図用具の取り扱いを学ぶ。設計意図を的確に表現する技能を学ぶ。/建築の設計に係わる知識や設計手順を学び、建築設計計画を修得する。/各施設的设计図書を作成、工事予算書の作成等に関し、企画等を行う上で必要とする専門知識を学ぶ。		
授業の到達目標	建築用語・各部材の理解。/線や記号の使い分け。/正確かつ合理的に図面を完成させる。/表現力を身につける。		
授業 の 計 画	1	概要 図面と製図 製図のルール 線引き練習	26 設計製図 RC2階建住宅 提出
	2	概要 図面と製図 製図の基本 建築製図の種類	27 設計製図 自由設計課題説明 企画
	3	製図 木造建築の描き方 概要 基本知識	28 設計製図 自由設計 企画 エスキース
	4	製図 木造建築の描き方 概要 配置図	29 設計製図 自由設計 エスキース チェック
	5	製図 木造建築の描き方 1階平面図	30 設計製図 自由設計 平面図 断面図 立面図
	6	製図 木造建築の描き方 2階平面図	31 設計製図 自由設計 平面図 断面図 立面図
	7	製図 木造建築の描き方 断面図 A-A	32
	8	製図 木造建築の描き方 断面図 B-B	33
	9	製図 木造建築の描き方 立面図 北 東	34
	10	製図 木造建築の描き方 立面図 南 西	35
	11	製図 木造建築の描き方 かなばかり図	36
	12	製図 木造建築の描き方 かなばかり図	37
	13	製図 木造建築の描き方 かなばかり図	38
	14	設計製図 木造2階建住宅課題説明 エスキース	39
	15	設計製図 木造2階建住宅 エスキース チェック	40
	16	設計製図 木造2階建住宅	41
	17	設計製図 木造2階建住宅	42
	18	設計製図 木造2階建住宅	43
	19	設計製図 木造2階建住宅 提出	44
	20	製図 RC建築の描き方 概要基本知識	45
	21	設計製図 RC2階建住宅課題説明エスキース	46
	22	設計製図 RC2階建住宅エスキース	47
	23	設計製図 RC2階建住宅エスキース チェック	48
	24	設計製図 RC2階建住宅	49
	25	設計製図 RC2階建住宅	50
授業の方法	実習		
テキスト/参考文献	初めての建築製図、プリント		
評価の方法や基準	<ul style="list-style-type: none"> ・提出された課題作品（正確さ、美しさ、発想力、表現力、完成度） ・課題への取り組み（努力、時間、計画性、授業態度、情報収集力） 		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			
実務経験			
実務経験の活かし方			
履修上の注意事項	特になし		

令和2年度 シラバス

授業科目	CAD実習Ⅱ	単位/時間	93 h	
開講学科等	建築・インテリアデザイン科	担当教員	石元 優	
授業の目的・テーマ	CAD実習Ⅰに引き続いて、2D CADの基礎から応用までを習得、速度・正確さなど技術的向上を目指す。/CAD実習Ⅰに引き続き、より実践的なCADソフトでの作図技術を修得する。/CADソフトを使って木造住宅・RC住宅の設計・製図を学ぶ。			
授業の到達目標	2D CADの特性の理解と、二次元製図の操作方法、操作手順の技術的向上。/CADソフト使って一般的な木造住宅の設計・製図（礎伏図から詳細図まで）を習得する。/CADソフト使って一般的なRC住宅の設計・製図（一般図から詳細図まで）を習得する。			
授業の計画	1	木造基礎伏図課題（1）	26	RC造矩形図課題（2）
	2	木造基礎伏図課題（2）	27	RC造矩形図課題（3）
	3	木造1階床伏図課題（1）	28	RC造詳細図課題（1）
	4	木造1階床伏図課題（2）	29	RC造詳細図課題（2）
	5	木造2階床伏図・1階小屋伏図課題（1）	30	RC造詳細図課題（3）
	6	木造2階床伏図・1階小屋伏図課題（2）	31	RC造詳細図課題（4）
	7	木造2階小屋伏図課題（1）	32	
	8	木造2階小屋伏図課題（2）	33	
	9	木造軸組図課題（1）	34	
	10	木造軸組図課題（2）	35	
	11	木造詳細図課題（1）	36	
	12	木造詳細図課題（2）	37	
	13	木造詳細図課題（3）	38	
	14	木造詳細図課題（4）夏休課題説明（RC住宅の設計）	39	
	15	RC造配置図課題	40	
	16	RC造平面図課題（1）	41	
	17	RC造平面図課題（2）	42	
	18	RC造平面図課題（3）	43	
	19	RC造断面図課題（1）	44	
	20	RC造断面図課題（2）	45	
	21	RC造断面図課題（3）	46	
	22	RC造立面図課題（1）	47	
	23	RC造立面図課題（2）	48	
	24	RC造立面図課題（3）	49	
	25	RC造矩形図課題（1）	50	
授業の方法	実習			
テキスト/参考文献	教員によるマニュアル配布			
評価の方法や基準	基本的なコンピューター用語の理解、ハードの取扱い、ソフトの基本的操作の習得具合を評価基準とする。CADを使っての基本的な設計製図の習得具合を評価基準とする。また、課題提出状況、出席状況を加味し総合評価を判断する。			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				
実務経験				
実務経験の活かし方				
履修上の注意事項	保存用の記憶媒体は、磁気によりデータを消失してしまう恐れがあるため、磁気には近づけないように。			

令和2年度 シラバス

授業科目	インテリアコーディネーター対策		単位/時間	315 h
開講学科等	二級建築士専攻科		担当教員	石元 優
授業の目的・テーマ	インテリアコーディネーター資格試験合格に向けた対策授業を行う。			
授業の到達目標	インテリアコーディネーター：一次試験の合格レベル。 インテリアコーディネーター：二次試験の合格レベル。			
授業の計画	1	インテリア販売	26	練習問題と解答例③
	2	インテリアの歴史	27	練習問題と解答例④
	3	インテリア計画	28	
	4	色彩と造形	29	
	5	家具	30	
	6	ウィンドウトリートメント	31	
	7	各種エレメント	32	
	8	構造と施工	33	
	9	材料	34	
	10	建具	35	
	11	環境工学	36	
	12	住宅設備	37	
	13	照明	38	
	14	表現技法	39	
	15	建築関連法規	40	
	16	消費者関連法規	41	
	17	住宅と社会	42	
	18	模擬試験①	43	
	19	模擬試験②	44	
	20	二次試験対策	45	
	21	二次試験対策	46	
	22	二次試験対策	47	
	23	二次試験対策	48	
	24	練習問題と解答例①	49	
	25	練習問題と解答例②	50	
授業の方法	演習			
テキスト/参考文献	インテリアコーディネーターハンドブック 他			
評価の方法や基準	インテリアコーディネーター：一次試験の合格レベル。 インテリアコーディネーター：二次試験の合格レベル。			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				
実務経験				
実務経験の活かし方				
履修上の注意事項	特になし			

令和 元年度 シラバス

授業科目	DTP実習	単位/時間	250h	
開講学科等	総合研究科	担当教員	横飛 弘	
授業の目的・テーマ	DTPについての基本的な操作方法や知識を学び、実践的なデザインテクニックと表現方法を習得していく。			
授業の到達目標	DTPによる印刷原稿の制作ができるようになること。 DTPの専門用語をマスターし、印刷入稿までの流れを把握する。			
授業の計画	1	4/11木 DTP授業の導入、DTP説明	26	11/25木 DTP講義課題装丁カバー・広告制作
	2	4/18木 DTP講義コンペ課題高知県展ポスター制作	27	11/28木 DTP講義課題チョコパッケージ・広告制作
	3	4/25木 DTP講義コンペ課題高知県展ポスター制作	28	12/5木 追試・再提出期間
	4	5/2木 DTP講義コンペ課題高知県展ポスター制作	29	12/12木 ↓
	5	5/16木 DTP講義コンペ課題高知県展ポスター制作	30	1/3木 制作期間
	6	5/23木 DTP講義課題ピクトグラム制作	31	1/16木
	7	5/30木 DTP講義課題ピクトグラム制作	32	1/23木
	8	6/6木 DTP講義課題ピクトグラム制作	33	1/30木
	9	6/13木 DTP講義課題個展DMハガキ・ポスター制作	34	2/6木
	10	6/20木 DTP講義課題個展DMハガキ・ポスター制作	35	2/13木 ↓
	11	6/27木 DTP講義課題個展DMハガキ・ポスター制作	36	
	12	7/4木 DTP講義課題苺狩りDMハガキ・ポスター	37	
	13	7/11木 試験期間	38	
	14	7/18木 ↓	39	
	15	8/5木 DTP講義課題苺狩りDMハガキ・ポスター	40	
	16	8/12木 DTP講義課題苺狩りDMハガキ・ポスター	41	
	17	8/19木 DTP講義課題Rio店舗DMハガキ・ポスター	42	DTP講義課題チョコパッケージ・広告制作
	18	8/26木 DTP講義課題Rio店舗DMハガキ・ポスター	43	DTP講義課題新聞モノクロ広告制作
	19	10/3木 DTP講義課題炭酸水ラベル・広告制作	44	DTP講義課題新聞モノクロ広告制作
	20	10/10木 DTP講義課題炭酸水ラベル・広告制作	45	
	21	10/17木 DTP講義課題炭酸水ラベル・広告制作	46	
	22	10/24木 DTP講義課題CIDマートチラシ制作	47	
	23	10/31木 DTP講義課題CIDマートチラシ制作	48	
	24	11/7木 DTP講義課題CIDマートチラシ制作	49	
	25	11/14木 DTP講義課題装丁カバー・広告制作	50	
授業の方法	実習と講義形式			
テキスト/参考文献	DTP印刷デザインの基本			
評価の方法や基準	出席率、授業態度、実習課題			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○	
実務経験	デザイン事務所にてデザイナー、設計士として勤務。			
実務経験の活かし方	デザインの現場で習得してきた資格やノウハウを学生に指導していく。			
履修上の注意事項	データ制作から入稿までの一連の流れの理解			

令和2年度 シラバス

授業科目	美容技術理論	単位/時間	102時間	
開講学科等	美容総合学科1年	担当教員	吉村 一美	
授業の目的・テーマ	多様化する美容の技術に対応するには、裏付けされた理論が求められる。科学的根拠や正しい裏づけを理解・学習し、技術の習得を容易にさせる。			
授業の到達目標	美容技術の基礎知識を理解させ、国家試験筆記を合格レベルにする。			
授業の計画	1	美容理論について	26	メイクアップ概論・顔の観察・メイクアップと色彩
	2	美容技術における作業姿勢・人体各部の名称	27	皮膚・道具・スキンケア
	3	美容用具について・章テスト	28	ネイル
	4	ヘアカラーの種類・タイプ別特徴・染毛のメカニズム	29	ネイル/アイメイクアップ
	5	色の基本・毛髪のレベルとアンダーローン・パッチテスト	30	ネイル/アイブロー
	6	染毛剤使用時の注意事項・ヘアカラーリング道具・酸化染毛剤技術手順	31	ネイル/リップ・ブラッシュオンメイクアップ
	7	酸性染毛料の技術手順・ヘアブリーチ・章テスト	32	ネイル/まつ毛エクステンション
	8	シャンプーの目的・サイドシャンプー・バックシャンプー	33	ネイル/まつ毛エクステンション
	9	リンス等の役割から成分・リンスの目的	34	ネイル/章テスト
	10	スキャルプトリートメント・ヘッドスパ・章テスト	35	ネイル
	11	ヘアデザインの錯視	36	
	12	デザインの要素・原理・章テスト	37	
	13	前期まとめプリント・期末試験	38	
	14	ヘアカッティングの目的・美容刃物	39	
	15	ヘアカッティング基礎理論・カット技法・章テスト	40	
	16	パーマネットウェーブの理論・分類・パーマ剤に関する注意事項	41	
	17	ワインディングのバリエーション・縮毛矯正・章テスト	42	
	18	まとめ	43	
	19	まとめ	44	
	20	ヘアセットのパーティング・シェーピング・カーリング・ヘアウェーブ	45	
	21	ローラーカーリング・ブロードドライ・アイロンセットアップスタイル・ウィッグとヘアピース	46	
	22	エステティック概論・皮膚の生理と構造・美容におけるマッサージ理論	47	
	23	フェイシャルケア技術・フェイシャル及びデコルテマッサージ・フェイシャルパック	48	
	24	章テスト・前期まとめ	49	
	25	期末試験	50	
授業の方法	教科書を中心に、パソコン・モニターを使用して講義する			
テキスト/参考文献	美容技術理論 1・2 ベーシックケミカル改訂版 ワークブック 美容師国家試験筆記過去問題集			
評価の方法や基準	授業態度 出席率 提出物 適宜試験の総合で評価する			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				
実務経験				
実務経験の活かし方				
履修上の注意事項	予習・復習を心がけ、配布プリントやノートはいつでも出せるようにする。 持参物：美容技術理論教科書 筆記用具			

令和2年度 シラバス

授業科目	美容技術理論	単位/時間	102時間	
開講学科等	美容総合学科1年	担当教員	吉村 一美	
授業の目的・テーマ	多様化する美容の技術に対応するには、裏付けされた理論が求められる。科学的根拠や正しい裏づけを理解・学習し、技術の習得を容易にさせる。			
授業の到達目標	美容技術の基礎知識を理解させ、国家試験筆記を合格レベルにする。			
授業の計画	1	美容理論について	26	メイクアップ概論・顔の観察・メイクアップと色彩
	2	美容技術における作業姿勢・人体各部の名称	27	皮膚・道具・スキンケア
	3	美容用具について・章テスト	28	ネイル
	4	ヘアカラーの種類・タイプ別特徴・染毛のメカニズム	29	ネイル/アイメイクアップ
	5	色の基本・毛髪のレベルとアンダートーン・パッチテスト	30	ネイル/アイブロー
	6	染毛剤使用時の注意事項・ヘアカラーリング道具・酸化染毛剤技術手順	31	ネイル/リップ・ブラッシュオンメイクアップ
	7	酸性染毛料の技術手順・ヘアブリーチ・章テスト	32	ネイル/まつ毛エクステンション
	8	シャンプーの目的・サイドシャンプー・バックシャンプー	33	ネイル/まつ毛エクステンション
	9	リンス等の役割から成分・リンスの目的	34	ネイル/章テスト
	10	スカルプトリートメント・ヘッドスパ・章テスト	35	ネイル
	11	ヘアデザインの錯視	36	
	12	デザインの要素・原理・章テスト	37	
	13	前期まとめプリント・期末試験	38	
	14	ヘアカッティングの目的・美容刃物	39	
	15	ヘアカッティング基礎理論・カット技法・章テスト	40	
	16	パーマネットウェーブの理論・分類・パーマ剤に関する注意事項	41	
	17	ワインディングのバリエーション・縮毛矯正・章テスト	42	
	18	まとめ	43	
	19	まとめ	44	
	20	ヘアセットのパーチング・シェーピング・カーリング・ヘアウェーピング	45	
	21	ローラーカーリング・ブロードライ・デイルンセット・アップスタイル・ウィッグとヘアピース	46	
	22	エステティック概論・皮膚の生理と構造・美容におけるマッサージ理論	47	
	23	フェイシャルケア技術・フェイシャル及びデコルテマッサージ・フェイシャルパック	48	
	24	章テスト・前期まとめ	49	
	25	期末試験	50	
授業の方法	教科書を中心に、パソコン・モニターを使用して講義する			
テキスト/参考文献	美容技術理論 1・2 ベーシックケミカル改訂版 ワークブック 美容師国家試験筆記過去問題集			
評価の方法や基準	授業態度 出席率 提出物 適宜試験の総合で評価する			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				
実務経験				
実務経験の活かし方				
履修上の注意事項	予習・復習を心がけ、配布プリントやノートはいつでも出せるようにする。 持参物：美容技術理論教科書 筆記用具			

令和2年度 シラバス

授業科目	保健	単位/時間	58時間	
開講学科等	美容総合学科 1年	担当教員	斧山 睦	
授業の目的・テーマ	人体の機能及び機能、疾病及び治療法を学習し、健康とは何か学ぶ。			
授業の到達目標	人体の機能及び機能を理解する。保健の知識を持つ美容の専門家であると認識する。			
授業の計画	1	人体の構造及び機能	26	皮膚と付属器官の保健
	2	体表解剖学	27	皮膚と付属器官の保健
	3	骨格器系	28	皮膚と付属器官の保健
	4	骨格器系	29	皮膚と付属器官の保健
	5	筋系	30	
	6	筋系	31	
	7	神経系	32	
	8	感覚器系	33	
	9	血液、循環器系	34	
	10	血液、循環器系	35	
	11	前期試験	36	
	12	呼吸器系	37	
	13	呼吸器系	38	
	14	消化器系	39	
	15	消化器系	40	
	16	後期試験 1	41	
	17	皮膚の構造	42	
	18	皮膚の構造	43	
	19	皮膚付属器官の構造	44	
	20	皮膚付属器官の構造	45	
	21	皮膚付属器官の構造	46	
	22	皮膚の循環系と神経系	47	
	23	皮膚と付属器官の生理機能	48	
	24	皮膚と付属器官の生理機能	49	
	25	後期試験 2	50	
授業の方法	教科書を中心の座学			
テキスト/参考文献	保健教科書、ワークブック、解剖生理学			
評価の方法や基準	出生状況、提出物、試験成績、授業態度などにより評価			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				
実務経験				
実務経験の活かし方				
履修上の注意事項				

令和2年度 シラバス

授業科目	化粧品科学	単位/時間	45時間
開講学科等	美容総合学科1年	担当教員	久川 理香
授業の目的・テーマ	化粧品概論、原料、基礎・メイクアップ・頭皮毛髪用化粧品、芳香製品・特殊化粧品の基礎的・基本的な内容について学習し、化粧品の取り扱い方等、美容に関する知識を習得する。		
授業の到達目標	化粧品化学の基本原理を理解し、それを美容に応用できる力をもった美容師		
授業の計画	1	5/26 授業の目的と計画	26 1/12パーマメントウェーブ用材 1/14 (2h) 染毛剤
	2	6/2 化粧品科学概論	27 1/19染毛剤 1/21育毛剤・芳香製品
	3	6/9 化粧品の規制	28 1/26特殊化粧品
	4	6/16 化粧品原料と水性原料	29 2/2化粧品の安定性
	5	6/23 化粧品油性原料	30 2/9化粧品の成分表作成
	6	6/30 ロウ類と炭化水素	31 2/16化粧品の成分表作成 2/18ワークブック
	7	7/7 その他の油性原料	32 2/25 ワークブック
	8	7/14 界面活性剤	33
	9	7/21 高分子化合物	34
	10	7/28 色材	35
	11	8/4 香料	36
	12	8/18 その他の配合成分	37
	13	8/25 その他の配合成分	38
	14	9/8 基礎化粧品	39
	15	9/29	40
	16	10/6 化粧水	41
	17	10/13 クリーム・乳液	42
	18	10/20 その他の基礎化粧品	43
	19	10/27 メイクアップ用化粧品	44
	20	11/10	45
	21	11/17 Bメイクアップ化粧品	46
	22	11/24Pメイクアップ化粧品 11/26ネイル・まつエク用材料	47
	23	12/1頭皮・毛髪化粧品 12/3ヘアリンス剤	48
	24	12/8スライディング剤の機能 12/10高分子スライディング剤	49
	25	1/7 (2h) パーマメントウェーブ用材	50
授業の方法	講義 パワーポイント・プリント		
テキスト/参考文献	化粧品科学 (日本理容美容教育センター)		
評価の方法や基準	授業態度・出席率・期末試験【70点以下追試】		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			
実務経験			
実務経験の活かし方			
履修上の注意事項	プリント提出		

令和2年度 シラバス

授業科目	衛生管理	単位/時間	54時間	
開講学科等	美容総合学科 2年	担当教員	中村 光良	
授業の目的・テーマ	・美容業務と感染症予防、環境衛生の保持を重視し美容現場における衛生措置の重要性を理解させる			
授業の到達目標	・消毒法の技術、意義と原理を理解させ適当な実施方法を身につけさせる。 ・国試過去問の解答、解説が出来るようになる。			
授業 の 計 画	1	人と感染症	26	すぐれた消毒法とその実施上の注意
	2	感染症の分類①	27	各種消毒薬①
	3	感染症の分類②	28	各種消毒薬②
	4	感染症の分類③	29	各種消毒薬③
	5	病原微生物①	30	理容所・美容所の消毒の実際
	6	病原微生物②	31	各種消毒薬
	7	感染症の予防	32	理容所・美容所の消毒の実際
	8	理容・美容と感染症	33	理容所・美容所の清潔法の実際
	9	主な感染症①	34	国試対策①
	10	主な感染症②	35	国試対策②
	11	主な感染症③	36	国試対策③
	12	消毒法とは	37	
	13	感染経路テスト	38	
	14	消毒の意義	39	
	15	消毒法の意義	40	
	16	感染症分類テスト	41	
	17	確認テスト	42	
	18	理容・美容の業務と消毒との関係	43	
	19	消毒法と適用上の注意	44	
	20	消毒法総論の復習	45	
	21	理学的消毒法	46	
	22	理学的消毒法	47	
	23	化学的消毒法	48	
	24	化学的消毒法	49	
	25	すぐれた消毒法とその実施上の注意	50	
授業の方法	講義			
テキスト/参考文献	教科書、ワークブック、過去問題			
評価の方法や基準	出席状況、提出物、試験成績、授業態度などによって総合的に評価する。			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○	
実務経験	美容師の業務に携わっていた			
実務経験の活かし方	美容室での消毒方法・感染症予防・衛生知識等			
履修上の注意事項				

令和2年度 シラバス

授業科目	ネイルアドバンス		単位/時間	140時間
開講学科等	美容総合学科2年		担当教員	矢野 愛
授業の目的・テーマ	ネイリスト技能検定とジェルネイル技能検定の上位検定合格を目指したカリキュラムとサロンワークで必要となるマシーンテクニック及び最新にネイルアートを学ぶ			
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ネイリスト技能検定2級・1級の技術と理論の習得 ・ジェルネイル技能検定中級・上級の技術と理論の習得 ・サロンワークで活かせるマシーンテクニックとジェルアート 			
授業の計画	1	5/7Yジェル中級グラデーション・フレンチ	26	
	2	5/27H検定説明・教材チェック 5/28Yジェル中級オフ・マツの使い方	27	
	3	6/3Hミスターの取り方 6/4Y中級グラデーション・フレンチ	28	
	4	6/11Y中級ジェルスカルプ	29	
	5	6/17H復習・フォーム乗せ 6/18 Y中級通し	30	
	6	6/24Hフォーム装着 6/25Hアブリケーション	31	
	7	7/1 Hファイリング 7/2Hファイリング	32	
	8	7/8Y中級通し 7/9 Hチップ オーバーレイ	33	
	9	7/15Y中級通し7/16H2級検定対策	34	
	10	7/22Y中級通し	35	
	11	7/29Y中級通し 7/30Hチップ オーバーレイ・3Dアート (1級課題)	36	
	12	8/6H1級全工程A	37	
	13	8/20H1級全工程B	38	
	14	8/26Yジェル上級ジェルスカルプ 8/27H1級全工程A	39	
	15	9/2Y上級アート・デザイン・フラー9/3H1級全工程B	40	
	16	9/9Yジェルチップ オーバーレイ・フレンチ 9/10H1級全工程A	41	
	17	10/1H1級全工程B	42	
	18	10/7Y1級対策 10/8H1級全工程A	43	
	19	10/14Y1級対策 10/15H1級全工程B	44	
	20	10/22H上級復習	45	
	21	10/29Y上級通し	46	
	22	11/5Y上級通し	47	
	23	11/12H卒業制作 (チップ)	48	
	24		49	
	25		50	
授業の方法	実習・講義			
テキスト/参考文献	JNAテクニカルシステムベーシック・JNAテクニカルシステムアドバンス・JNAテクニカルシステムジェルネイル・ネイルキット			
評価の方法や基準	筆記試験、授業態度、出席率、実技試験、振り返りシートチェック			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	ネイルサロン経営・JNA本部認定講師			
実務経験の活かし方	本部認定講師はネイリスト技能検定試験・ジェルネイル試験の試験目を行う事が出来、検定の重要なポイントや苦手項目に対して指導する事で合格率のアップを図る。また、ツサロン経営の経験に於いてジェルデザインアート力を付けさせる事が出来る。			
履修上の注意事項				

令和2年度 シラバス

授業科目	美容総合技術 メイクアドバンス	単位/時間	56時間
開講学科等	美容総合学科 ビューティブライダルコース2年	担当教員	山崎 紀代
授業の目的・テーマ	ショー・コンテストに参加しながら想像力つける デザインからのメイクアップの表現		
授業の到達目標	TPOにあわせてイメージメイクアップができる		
授業の計画	1	基礎技術の復習1	26 創作メイクテスト
	2	基礎技術の復習2	27 ナチュラルメイクテスト
	3	時代のメイク1920	28
	4	時代のメイク1930	29
	5	時代のメイク1950	30
	6	時代のメイク1960	31
	7	時代のメイク1970	32
	8	時代のメイク1980	33
	9	時代のメイク1990	34
	10	コンテスト対策	35
	11	コンテスト対策	36
	12	コンテスト対策	37
	13	ショー対策	38
	14	ショー対策	39
	15	ショー対策	40
	16	ショー対策	41
	17	ショー対策	42
	18	ショー対策	43
	19	ブライダルメイク和装	44
	20	ブライダルメイク洋装	45
	21	イメージメイク	46
	22	コンテスト対策	47
	23	コンテスト対策	48
	24	コンテスト対策	49
	25	コンテスト対策	50
授業の方法	相モデル コンテスト・ショーなどの作品づくり。		
テキスト/参考文献	百日草 メイクブック		
評価の方法や基準	実技テスト 授業態度 作品作りの取り組み		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載す			
実務経験	メイクアップアーティストとしての事務所所属・美容師としてサロンワーク、 ブライダル 講師活動 ショー・雑誌撮影など		
実務経験の活かし方	メイクアップアーティストの仕事を理解してもらう		
履修上の注意事項	メイクアップのみでなく衣装やアクセサリなど用意し、全体のイメージを作る		

法人所在地 高知市北本町1丁目12番6号

法人名称 学校法人 龍馬学園

代表者 理事長 佐竹 新市

理事（役員）名簿

(令和2年5月28日現在)

理事、 監事の別	氏名	就任日	任期	備考
理事	佐竹 新市	令和2年 5月28日	令和4年の定時理事会・ 評議員会終了時まで	
理事	佐竹 茂市	令和2年 5月28日	令和4年の定時理事会・ 評議員会終了時まで	
理事	大平 康喜	令和2年 5月28日	令和4年の定時理事会・ 評議員会終了時まで	学外者
理事	宮地 貴嗣	令和2年 5月28日	令和4年の定時理事会・ 評議員会終了時まで	学外者
理事	泉田 優	令和2年 5月28日	令和4年の定時理事会・ 評議員会終了時まで	
理事	芝 鉄夫	令和2年 5月28日	令和4年の定時理事会・ 評議員会終了時まで	
理事	野町 裕	平成30年 4月1日	校長在任期間中であれば 任期なし	
監事	中坂 雄一	令和2年 5月28日	令和4年の定時理事会・ 評議員会終了時まで	
監事	浜添 英章	令和2年 5月28日	令和4年の定時理事会・ 評議員会終了時まで	

国際デザイン・ビューティカレッジGPA制度に関する規定

(趣旨)

第1条 この規程は、国際デザイン・ビューティカレッジにおけるグレード・ポイント・アベレージ（履修科目の成績の平均値。以下「GPA」という。）制度による評価について必要な事項を定め、透明性のある成績評価を通じて、学生の学習意欲を喚起するとともに教員のきめ細やかな履修指導を推進し、教育の質の向上を図ることを目的とする。

(評価等)

第2条 学生が履修した授業科目の成績の評価及びグレード・ポイント（評価により与えられる数値。以下「GP」という。）は、下記の表のとおりとする。

【表】

	評価	得点	GP
A	基準を超えて優秀である	85点以上	3
B	基準に十分達している	70～84点	2
C	単位を認める最低限の基準に達している	60～69点	1
D	基準を下回っている（不合格）	59点以下	0

2 前項の規定にかかわらず、再試験により取得した評価は成績（得点）の結果にかかわらず「C」評価としGPの値は「1」とする。

学生が他大学等で履修した授業科目等（以下「他大学等履修科目」という。）

について、本学における履修とみなし単位を与える場合は、GPAの算出科目の対象とはしない。ただし、校長が必要と認める場合は、他大学等履修科目について、前項の規定に基づく成績の評価を行うことができるものとする。

(GPAの算出)

第3条 GPAは、次の式により計算するものとし、その数に小数点以下第二位未満の端数があるときは、小数点以下第三位の値を四捨五入するものとする。

$$(式1) \text{ GPA} = \frac{(\text{GP} \times \text{時間数}) \text{ の総和}}{\text{履修科目の総時間数}}$$

(対象授業科目等)

第4条 本学の各専門課程で開講する全ての授業科目をGPAの対象授業科目とする。

2 前項の規定にかかわらず、次の各号に掲げる授業科目に該当する場合は、GPAの対象外とする

- (1) 合否等により判定する授業科目
- (2) 学校長がGPA算出除外科目として定める授業科目

(雑則)

第5条 この規程に定めるもののほか、GPAに関し必要な事項は、別に定める。

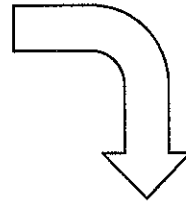
附 則

- 1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。

GPA 算出の具体例

1. GPA制度に関する規定の第2条の【表】を適用し科目別GPの算出表<表1>を作成
 <表1>科目別GP算出表 時間数：30 時間の場合

NO.	氏名	得点	評価	GP	ポイント
1	学生 1	86	A	3	90
2	学生 2	72	B	2	60
3	学生 3	75	B	2	60
4	学生 4	83	A	3	90
5	学生 5	55	D	0	0
6	学生 6	82	A	3	90
7	学生 7	71	B	2	60
8	学生 8	63	C	1	30
9	学生 9	90	A	3	90
10	学生 10	81	A	3	90
:	:	:	:	:	:



2. GPA制度に関する規定の第3条の(式1)を適用しGPA算出表<表2>を作成
 <表2>GPA算出表

NO.	氏名	総時間数	科目1	科目2	科目3	科目4	科目5	科目6	..	科目N	GPA
1	学生 1	900	120	240	360	240	300	120	..	480	2.25
2	学生 2	900	90	~	~	~	~	~	~	~	2.36
3	学生 3	900	90	~	~	~	~	~	~	~	2.21
4	学生 4	900	120	~	~	~	~	~	~	~	2.05
5	学生 5	900	30	~	~	~	~	~	~	~	1.95
6	学生 6	900	120	~	~	~	~	~	~	~	2.65
7	学生 7	900	90	~	~	~	~	~	~	~	2.52
8	学生 8	900	60	~	~	~	~	~	~	~	2.89
9	学生 9	900	120	~	~	~	~	~	~	~	2.48
10	学生 10	900	120	~	~	~	~	~	~	~	2.62
:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:

3. 学生の成績分布状態の把握と下位4分の1の範囲を示すグラフ等の表示
 <表3> ①<表2>をもとにGPAの高い順に並べ替えを行う

順位	氏名:	GPA
:	:	:
30	学生 17	2.17
31	学生 36	2.15
32	学生 18	2.09
33	学生 25	2.08
34	学生 4	2.05
35	学生 23	2.05
36	学生 30	2.04
37	学生 22	1.96
38	学生 5	1.95
39	学生 14	1.88
40	学生 37	1.86

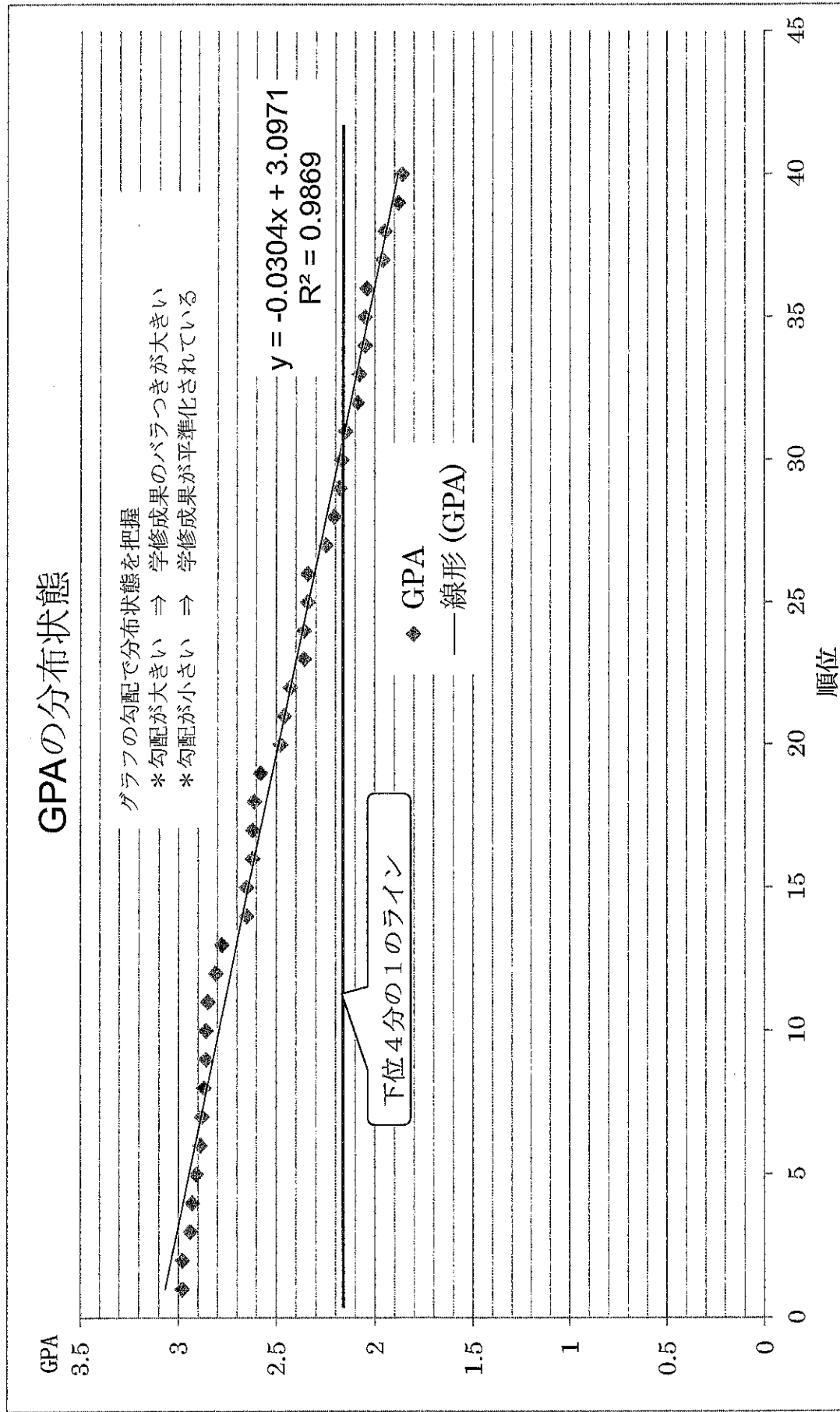
← 第1四分位数

②四分位法を適用し下位4分の1の数値を求める
 例) EXCEL関数を適用し第1四分位数を求める
 =QUARTILE(\$C\$6:\$C\$45,1)
 ↓
 結果 : 第1四分位数は、2.17

下位4分の1

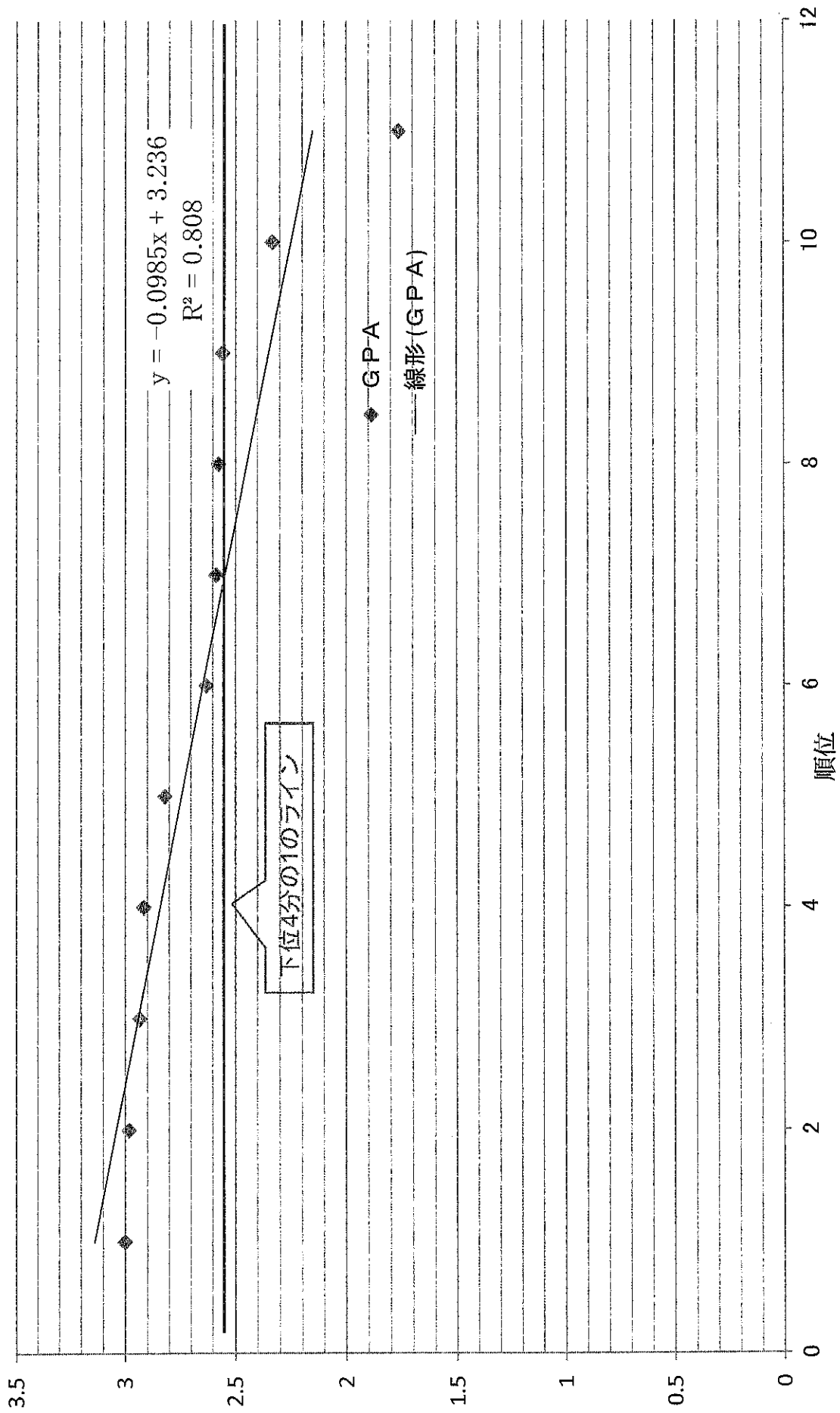
③第1四分位数の値をもとに下位4分1の学生の範囲を把握する

④<表3>をもとにGPAの分布状態をグラフ化し、学生の学修成果のバラつき状態を把握
 <グラフ1>

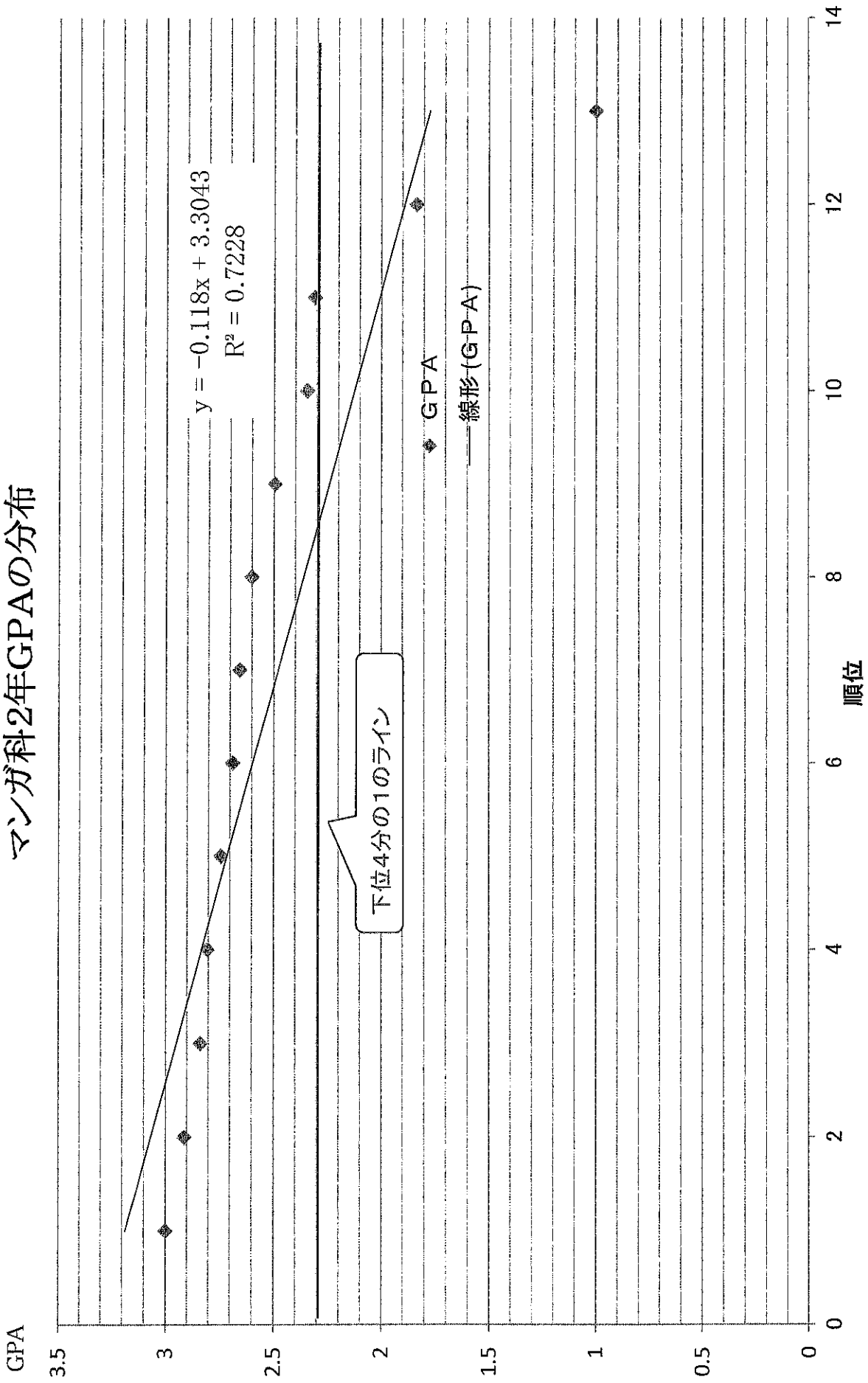


マンガ科1年GPAの分布

GPA

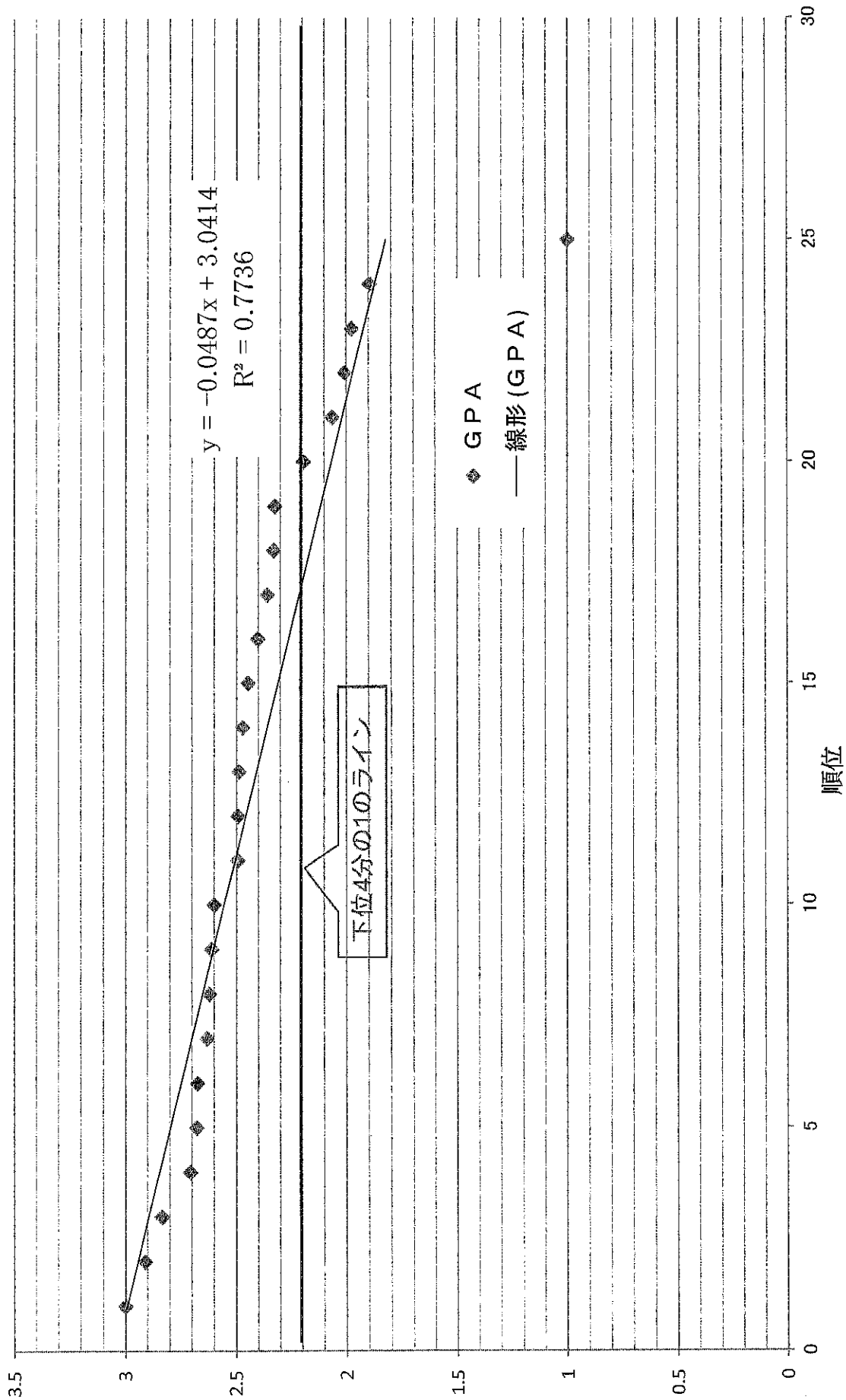


マンガ科2年GPAの分布



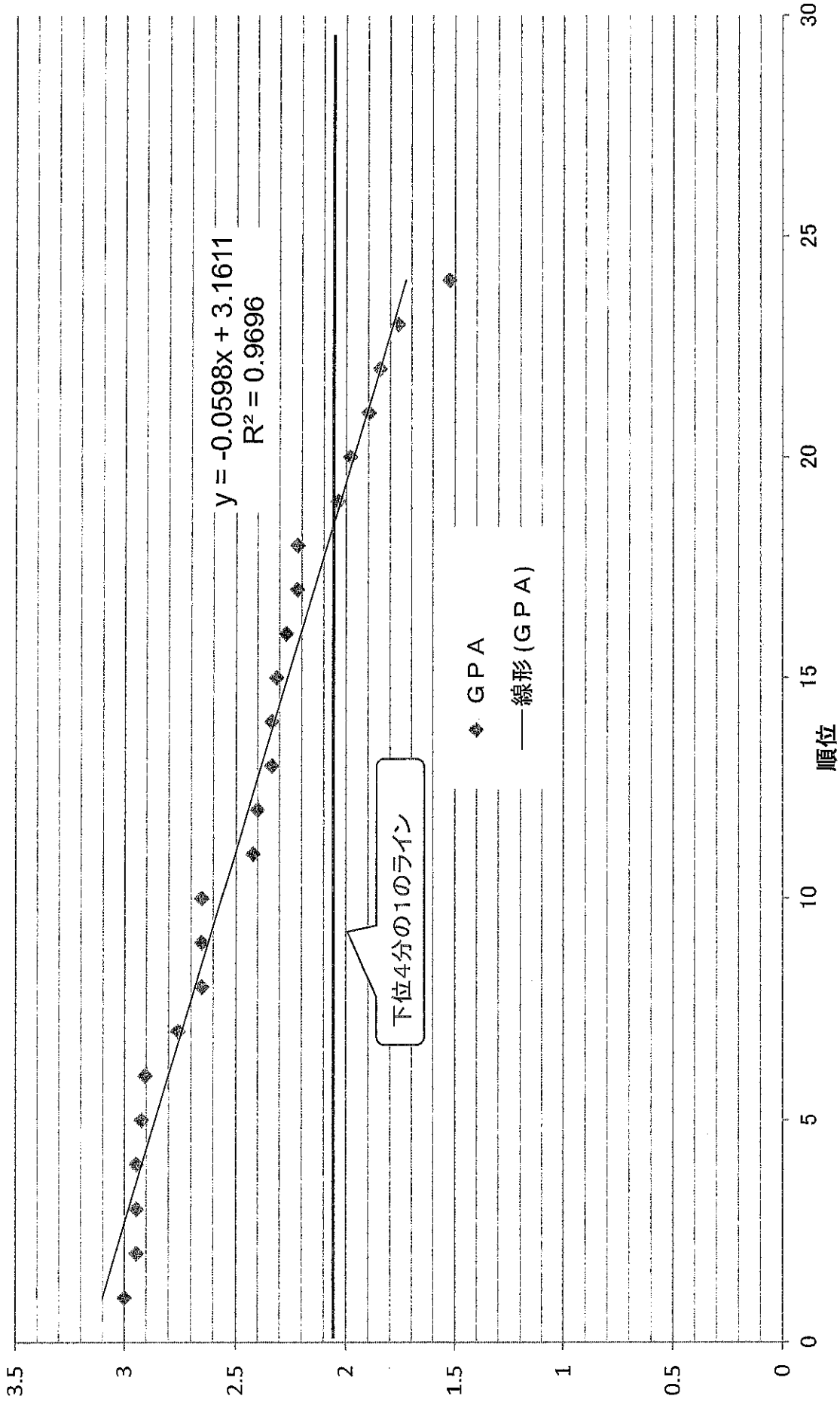
グラフィックデザイン科1年GPAの分布

GPA



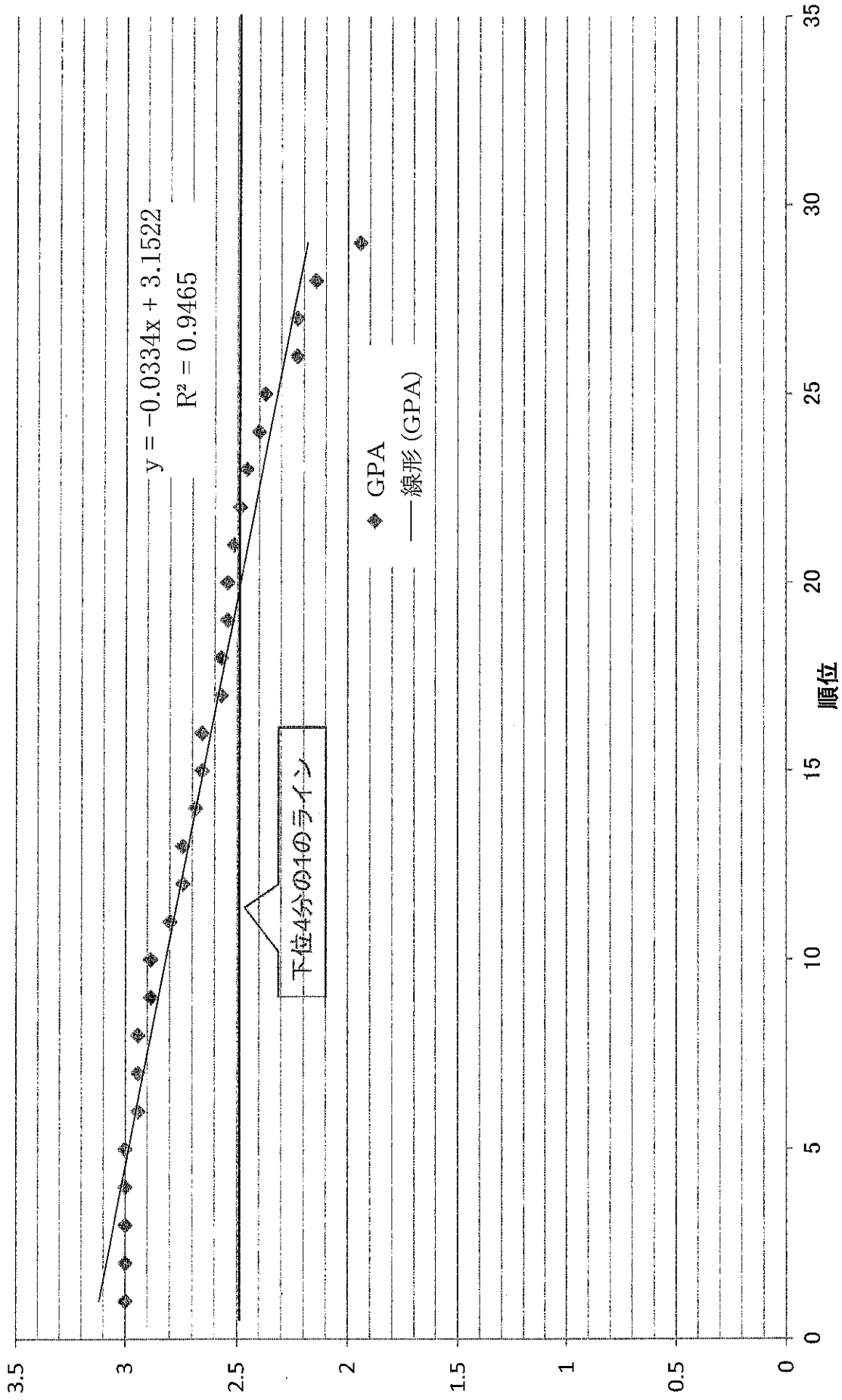
グラフィックデザイン科2年GPAの分布

GPA



建築・インテリアデザイン科1年GPAの分布

GPA



建築・インテリアデザイン科2年GPAの分布

GPA

3.5

3

2.5

2

1.5

1

0.5

0

$$y = -0.0316x + 2.937$$

$$R^2 = 0.9071$$

下位4分の1のライン

◆ GPA

— 線形 (GPA)

0

5

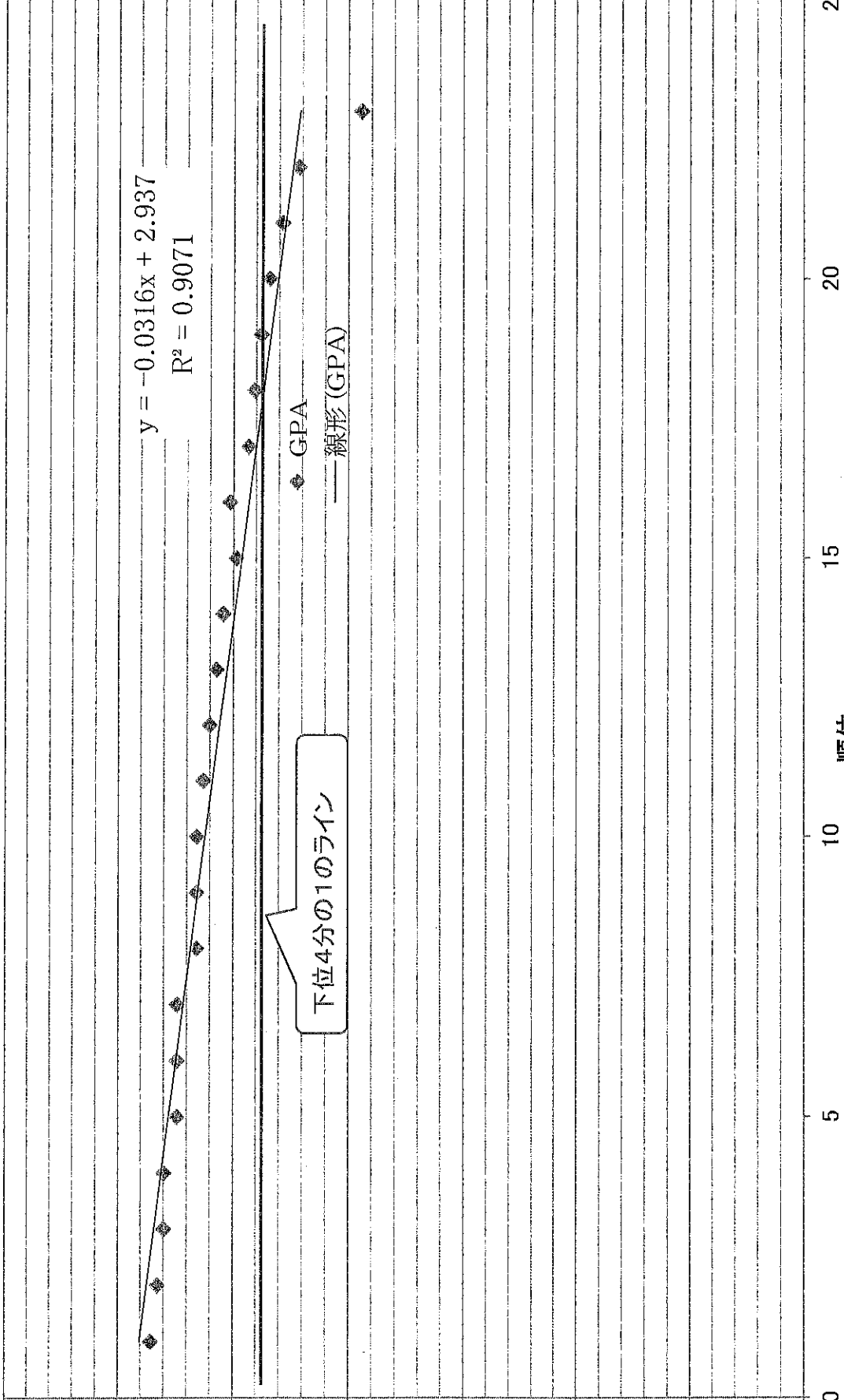
10

15

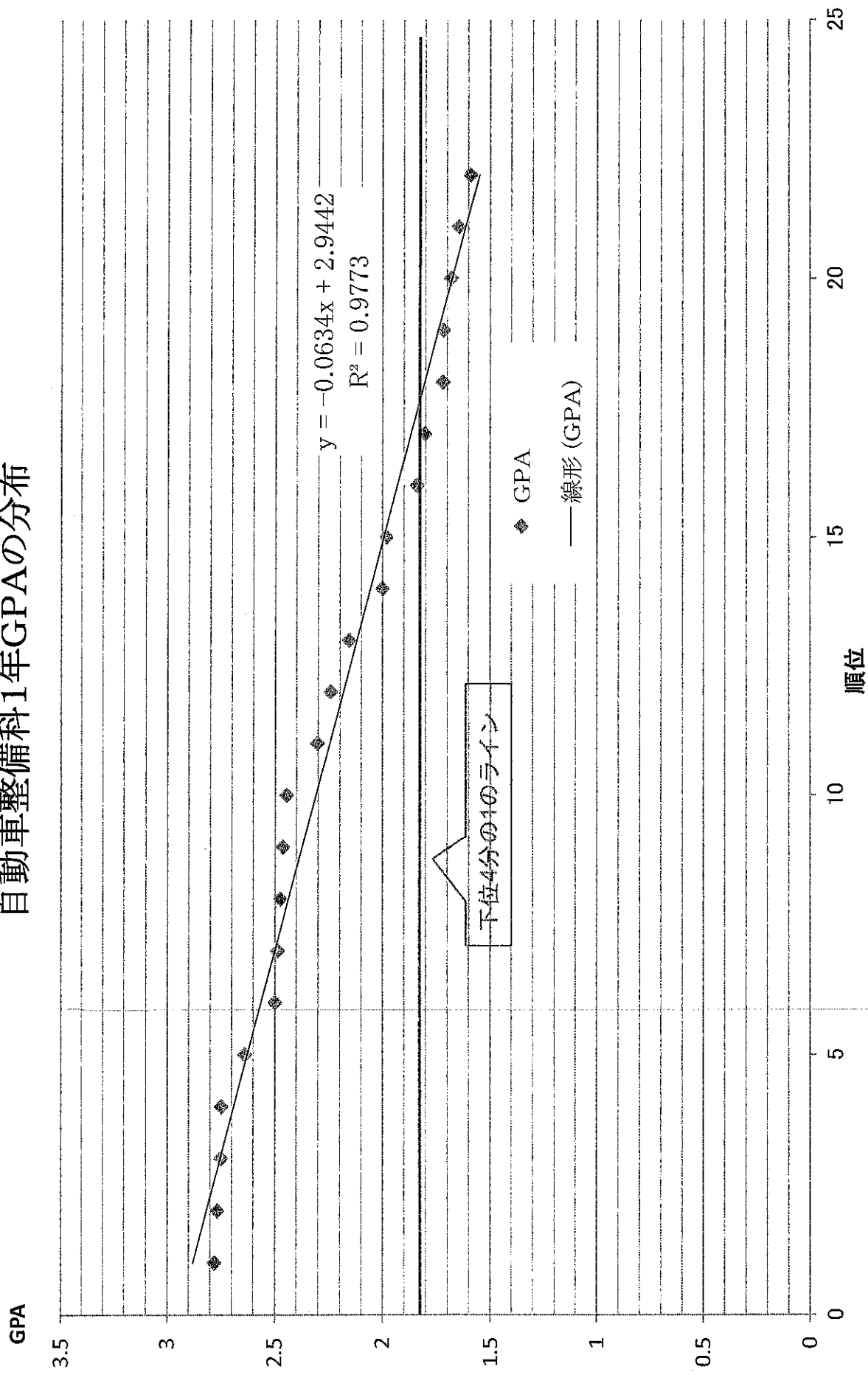
20

25

順位



自動車整備科1年GPAの分布



自動車整備科2年GPAの分布

GPA

3.5

3

2.5

2

1.5

1

0.5

0

$$y = -0.1114x + 3.414$$

$$R^2 = 0.8175$$

下位4分の1のライン

◆ GPA

— 線形 (GPA)

順位

16

14

12

10

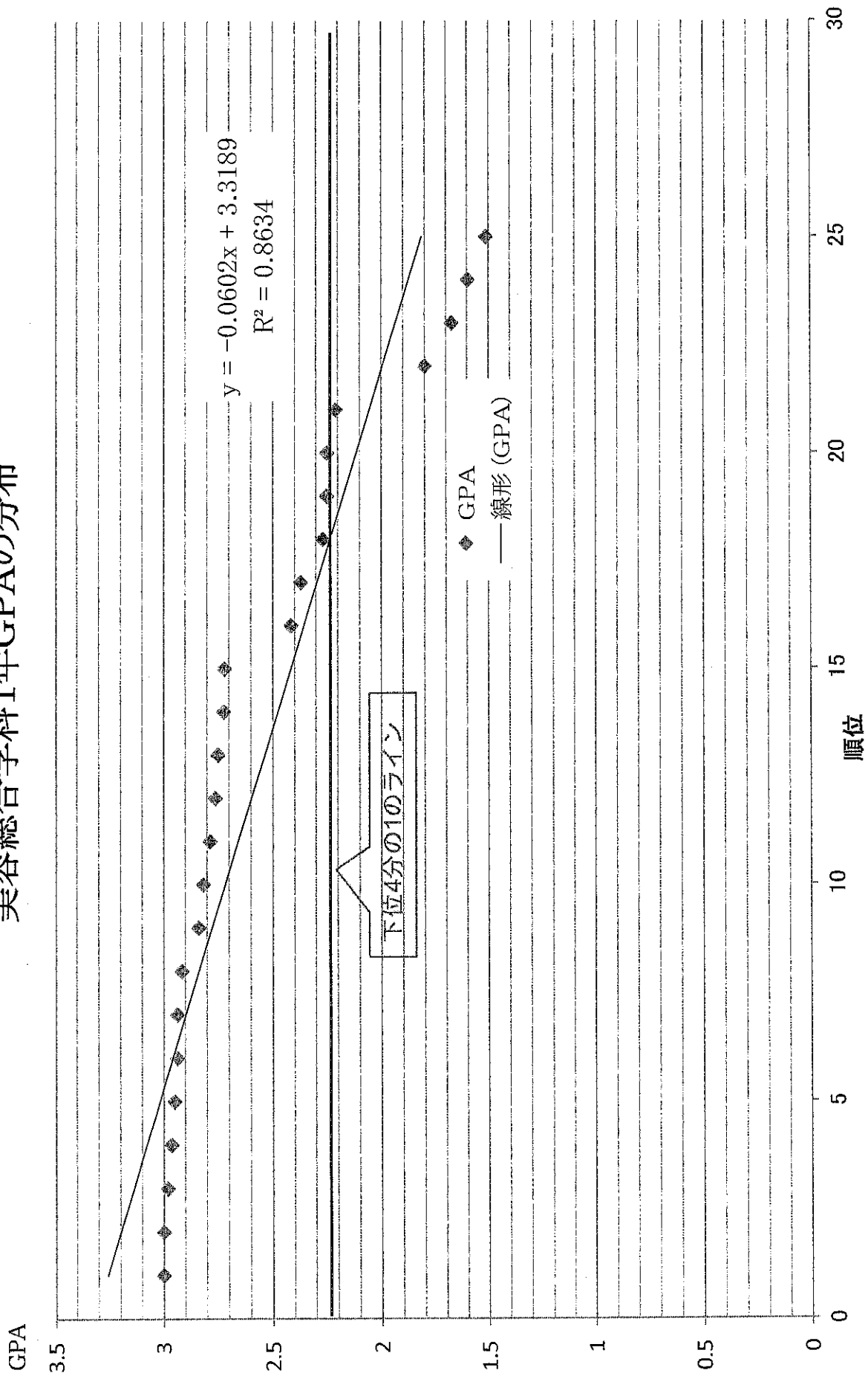
8

6

4

2

美容総合学科1年GPAの分布

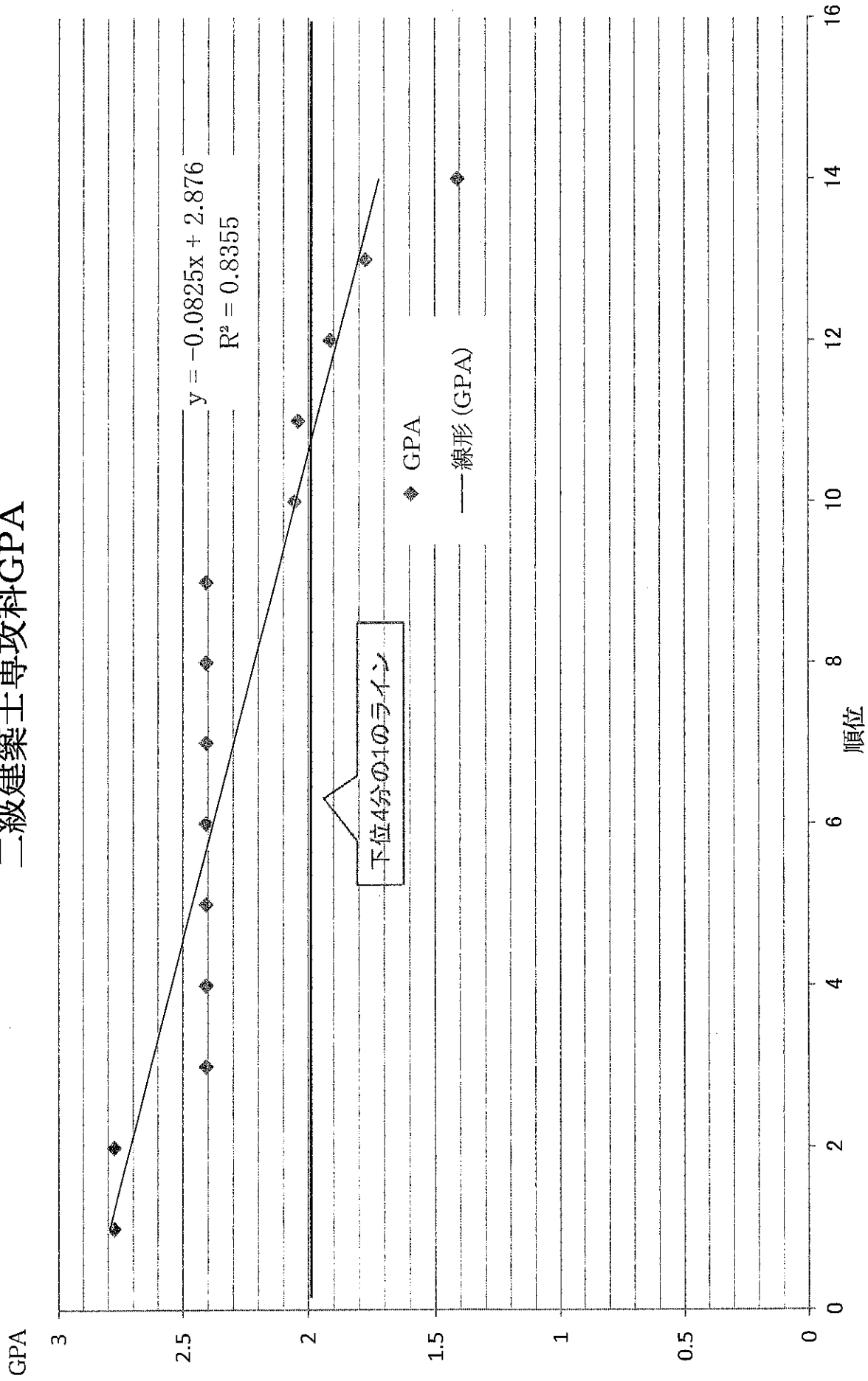


美容総合学科2年GPAの分布

GPA



二級建築士専攻科GPA



(添付書類) 経営要件を満たすことを示す資料

学校名	国際デザイン・ビューティカレッジ
設置者名	学校法人 龍馬学園

I 直前3年度の決算の事業活動収支計算書における「経常収支差額」の状況

	経常収入(A)	経常支出(B)	差額(A)-(B)
申請前年度の決算	1,048,061,020円	1,025,021,192円	23,039,828円
申請2年度前の決算	1,024,534,041円	1,037,620,941円	△13,086,900円
申請3年度前の決算	1,010,284,882円	1,060,244,512円	△49,959,630円

II 直前の決算の貸借対照表における「運用資産-外部負債」の状況

	運用資産(C)	外部負債(D)	差額(C)-(D)
申請前年度の決算	237,663,727円	2,369,951,312円	△2,132,287,585円

III 申請校の直近3年度の収容定員充足率の状況

	収容定員(E)	在学生等の数(F)	収容定員充足率(F)/(E)
今年度(申請年度)	500	256	51%
前縁度	500	241	48%
前々年度	500	237	47%

(IIの補足資料)「運用資産」又は「外部負債」として計上した勘定科目一覧

○「運用資産」に計上した勘定科目

勘定科目	本年度末	内容
現金預金	227,571,739円	
有価証券	10,091,988円	

○「外部負債」に計上した勘定科目

勘定科目	本年度末	内容
長期借入金	2,055,172,414円	
学校債	98,200,000円	
長期未払金	3,933,144円	リース未払金
短期借入金	44,827,586円	
1年以内償還予定学校債	145,000,000円	
未払金	22,818,168円	

事業活動収支計算書

平成31年 4月 1日 から
令和 2年 3月 31日 まで

(単位：円)

		科 目	予 算	決 算	差 異
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	(948,480,000)	(935,586,491)	(12,893,509)
		手数料	(15,290,000)	(13,286,880)	(2,003,120)
		寄付金	(0)	(0)	(0)
		経常費等補助金	(22,000,000)	(23,674,791)	(Δ1,674,791)
		付随事業収入	(46,000,000)	(62,799,101)	(Δ16,799,101)
		雑収入	(6,820,000)	(12,241,385)	(Δ5,421,385)
		教育活動収入計	1,038,590,000	1,047,588,648	Δ8,998,648
	事業活動支出の部	人件費	(562,222,000)	(567,050,742)	(Δ4,828,742)
		教育研究経費	(283,908,000)	(276,096,257)	(7,811,743)
		管理経費	(149,461,000)	(136,337,830)	(13,123,170)
徴収不能額等		(0)	(0)	(0)	
	教育活動支出計	995,591,000	979,484,829	16,106,171	
	教育活動収支差額	42,999,000	68,103,819	Δ25,104,819	
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	(900,000)	(472,372)	(427,628)
		その他の教育活動外収入	(0)	(0)	(0)
		教育活動外収入計	900,000	472,372	427,628
	支出の部	借入金等利息	(41,322,000)	(45,536,363)	(Δ4,214,363)
		その他の教育活動外支出	(0)	(0)	(0)
		教育活動外支出計	41,322,000	45,536,363	Δ4,214,363
	教育活動外収支差額	Δ40,422,000	Δ45,063,991	4,641,991	
	経常収支差額	2,577,000	23,039,828	Δ20,462,828	
特別収支	収入の部	資産売却差額	(0)	(0)	(0)
		その他の特別収入	(0)	(1,736,000)	(Δ1,736,000)
		特別収入計	0	1,736,000	Δ1,736,000
	支出の部	資産処分差額	(0)	(2)	(Δ2)
		その他の特別支出	(0)	(521,100)	(Δ521,100)
		特別支出計	0	521,102	Δ521,102
	特別収支差額	0	1,214,898	Δ1,214,898	
	予備費	(0)	-	-	
	基本金組入前当年度収支差額	2,577,000	24,254,726	Δ21,677,726	
	基本金組入額合計	Δ140,000,000	Δ119,883,713	Δ20,116,287	
	当年度収支差額	Δ137,423,000	Δ95,628,987	Δ41,794,013	
	前年度繰越収支差額	Δ2,810,546,364	Δ2,810,546,364	0	
	基本金取崩額	0	0	0	
	翌年度繰越収支差額	Δ2,947,969,364	Δ2,906,175,351	Δ41,794,013	

事業活動収支計算書

平成30年 4月 1日 から
平成31年 3月31日 まで

(単位：円)

		科 目	予 算	決 算	差 異
教育活動収入の部	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	(942,200,000)	(923,607,000)	(18,593,000)
		手数料	(15,290,000)	(13,265,240)	(2,024,760)
		寄付金	(0)	(0)	(0)
		経常費等補助金	(20,000,000)	(25,971,844)	(△5,971,844)
		付随事業収入	(46,000,000)	(50,568,188)	(△4,568,188)
		雑収入	(6,820,000)	(10,584,999)	(△3,764,999)
		教育活動収入計	1,030,310,000	1,023,997,271	6,312,729
教育活動支出の部	事業活動支出の部	人件費	(566,740,000)	(579,643,341)	(△12,903,341)
		教育研究経費	(282,627,000)	(272,591,969)	(10,035,031)
		管理経費	(136,840,000)	(140,432,044)	(△3,592,044)
		徴収不能額等	(0)	(83,405)	(△83,405)
		教育活動支出計	986,207,000	992,750,759	△6,543,759
教育活動収支差額		44,103,000	31,246,512	12,856,488	
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	(900,000)	(536,770)	(363,230)
		その他の教育活動外収入	(0)	(0)	(0)
		教育活動外収入計	900,000	536,770	363,230
	支出の部	借入金等利息	(43,189,000)	(44,870,182)	(△1,681,182)
		その他の教育活動外支出	(0)	(0)	(0)
		教育活動外支出計	43,189,000	44,870,182	△1,681,182
教育活動外収支差額		△42,289,000	△44,333,412	2,044,412	
経常収支差額		1,814,000	△13,086,900	14,900,900	
特別収支	収入の部	資産売却差額	(0)	(0)	(0)
		その他の特別収入	(0)	(0)	(0)
		特別収入計	0	0	0
	支出の部	資産処分差額	(0)	(6)	(△6)
		その他の特別支出	(0)	(171,036)	(△171,036)
		特別支出計	0	171,042	△171,042
特別収支差額		0	△171,042	171,042	
予備費		(0)			
基本金組入前当年度収支差額		1,814,000	△13,257,942	15,071,942	
基本金組入額合計		△140,000,000	△139,040,671	△959,329	
当年度収支差額		△138,186,000	△152,298,613	14,112,613	
前年度繰越収支差額		△2,679,247,751	△2,679,247,751	0	
基本金取崩額		0	21,000,000	△21,000,000	
翌年度繰越収支差額		△2,817,433,751	△2,810,546,364	△6,887,387	

事業活動収支計算書

平成29年 4月 1日 から
平成30年 3月31日 まで

(単位:円)

		科 目	予 算	決 算	差 異	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	(914,340,000)	(869,793,500)	(44,546,500)	
		手数料	(15,290,000)	(14,375,260)	(914,740)	
		寄付金	(0)	(0)	(0)	
		経常費等補助金	(20,000,000)	(26,634,425)	(△6,634,425)	
		付随事業収入	(61,200,000)	(87,737,507)	(△26,537,507)	
		雑収入	(6,050,000)	(10,766,437)	(△4,716,437)	
			教育活動収入計	1,016,880,000	1,009,307,129	7,572,871
	事業活動支出の部	人件費	(544,080,000)	(569,356,311)	(△25,276,311)	
		教育研究経費	(283,086,000)	(284,394,591)	(△1,308,591)	
		管理経費	(134,065,000)	(153,829,586)	(△19,764,586)	
徴収不能額等		(0)	(390,000)	(△390,000)		
		教育活動支出計	961,231,000	1,007,970,488	△46,739,488	
		教育活動収支差額	55,649,000	1,336,641	54,312,359	
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	(900,000)	(977,753)	(△77,753)	
		その他の教育活動外収入	(0)	(0)	(0)	
		教育活動外収入計	900,000	977,753	△77,753	
	事業活動支出の部	借入金等利息	(56,113,000)	(52,274,024)	(3,838,976)	
		その他の教育活動外支出	(0)	(0)	(0)	
		教育活動外支出計	56,113,000	52,274,024	3,838,976	
		教育活動外収支差額	△55,213,000	△51,296,271	△3,916,729	
		経常収支差額	436,000	△49,959,630	50,395,630	
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	(0)	(0)	(0)	
		その他の特別収入	(0)	(246,351)	(△246,351)	
		特別収入計	0	246,351	△246,351	
	事業活動支出の部	資産処分差額	(0)	(2,022,049)	(△2,022,049)	
		その他の特別支出	(0)	(470,201)	(△470,201)	
		特別支出計	0	2,492,250	△2,492,250	
		特別収支差額	0	△2,245,899	2,245,899	
		予備費	(0)			
		基本金組入前当年度収支差額	436,000	△52,205,529	52,641,529	
		基本金組入額合計		△177,239,888	177,239,888	
		当年度収支差額	436,000	△229,445,417	229,881,417	
		前年度繰越収支差額	△2,449,802,334	△2,449,802,334	0	
		基本金取崩額	0	0	0	
		翌年度繰越収支差額	△2,449,366,334	△2,679,247,751	229,881,417	

貸借対照表

令和 2年 3月31日

(単位：円)

資産の部			
科 目	前 年 度 末	本 年 度 末	増 減
固定資産	(4,215,489,794)	(4,132,068,909)	(△83,420,885)
有形固定資産	(4,095,286,390)	(4,019,288,505)	(△75,997,885)
土地	2,144,800,261	2,144,800,261	0
建物	1,842,246,562	1,785,037,905	△57,208,657
其他有形固定資産	108,239,567	89,450,339	△18,789,228
特定資産	(0)	(0)	(0)
其他の固定資産	(120,203,404)	(112,780,404)	(△7,423,000)
有価証券	15,591,988	10,091,988	△5,500,000
其他固定資産	104,611,416	102,688,416	△1,923,000
流動資産	(335,245,572)	(352,039,618)	(16,794,046)
現金預金	265,312,866	227,571,739	△37,741,127
其他流動資産	69,932,706	124,467,879	54,535,173
資産の部合計	4,550,735,366	4,484,108,527	△66,626,839

負債の部			
科 目	前 年 度 末	本 年 度 末	増 減
固定負債	(1,344,084,027)	(2,188,228,497)	(844,144,470)
長期借入金	1,098,573,896	2,055,172,414	956,598,518
学校債	208,000,000	98,200,000	△109,800,000
長期未払金	8,766,288	3,933,144	△4,833,144
退職給与引当金	28,743,843	30,922,939	2,179,096
流動負債	(1,724,550,412)	(789,524,377)	(△935,026,035)
短期借入金	1,078,750,094	44,827,586	△1,033,922,508
1年以内償還予定学校債	38,500,000	145,000,000	106,500,000
未払金	21,551,573	22,818,168	1,266,595
前受金	567,646,050	559,015,320	△8,630,730
預り金	18,102,695	17,863,303	△239,392
負債の部合計	3,068,634,439	2,977,752,874	△90,881,565

純資産の部			
科 目	前 年 度 末	本 年 度 末	増 減
基本金	(4,292,647,291)	(4,412,531,004)	(119,883,713)
第1号基本金	4,213,647,291	4,333,531,004	119,883,713
第4号基本金	79,000,000	79,000,000	0
繰越収支差額	(△2,810,546,364)	(△2,906,175,351)	(△95,628,987)
翌年度繰越収支差額	△2,810,546,364	△2,906,175,351	△95,628,987
純資産の部合計	1,482,100,927	1,506,355,653	24,254,726
負債及び純資産の部合計	4,550,735,366	4,484,108,527	△66,626,839

(添付書類) 確認申請を行う年度において設置している学部等の一覧

国際デザイン・ビューティカレッジ

課 程	学 科	修業年限	定 員
文化・教養関係 専門課程	グラフィックデザイン科	2年	40名
	マンガ科	2年	30名
	日本語学科 (留学生対象)	2年コース	20名
		1.5年コース	20名
	総合研究科	1年	20名
工業関係専門課程	自動車整備科	2年	40名
	建築・インテリアデザイン科	2年	40名
	二級建築士専攻科	1年	20名
衛生関係専門課程	美容総合学科	2年	40名